

〔愛知県委託事業 歯科衛生士再就業支援事業〕

# 平成27年度 歯科衛生士就業実態調査報告書

# 平成 27 年度 歯科衛生士就業実態調査報告書

## 1. はじめに

歯科衛生士は、歯科医療において欠かせない存在であり、歯科医師の重要なパートナーである。しかしながら、歯科衛生士の不足は歯科診療所の深刻な問題であり、歯科衛生士の確保に困難を極めているのが現状である。

以前より、誤嚥性肺炎及び基礎疾患の重症化を予防する上で、口腔管理を徹底することが重要であることは認識されていた。そのような中で、「口から食べる楽しみの支援の充実」を目指した平成 27 年度介護報酬改定が行われ、経口維持支援といった歯科の果たすべき役割は、在宅医療・介護の現場においてさらに広がることになった。同時に歯科衛生士が果たすべき役割も増え、活躍の場は歯科診療所だけにとどまらず、介護施設等にも広がっている。

平成 27 年 7 月に厚生労働省から発表された「平成 26 年度衛生行政報告例(就業医療関係者)」によると全国の就業歯科衛生士は 116,299 人で、前回(平成 24 年度)に比べ 8,176 人増加していた。就業場所別に見てみると「診療所」が 90.5% (105,248 人)と前回調査より 0.2 ポイント減少、「病院」が 5.1%(5,882 人)と 0.3 ポイント増加、介護老人保健施設は 0.4%(482 人)で 0.1 ポイント増加していることから、需要の増加と就業場所の多様化が明らかとなった。

また、同調査による人口 10 万対就業歯科衛生士数の全国平均は 91.5 人で、愛知県は前回調査より 10.8 人増加して 66.6 人となったが、それでも全国最下位を脱して 1 つ順位を上げるにとどまっている。東海 3 県に限定してみても岐阜県の 120.4 人、三重県の 88.8 人と比較して愛知県の歯科衛生士数の少なさは明らかであり、歯科衛生士の人材確保は急務であると言える。

## 2. 調査目的

歯科衛生士再就業支援事業の一環として歯科診療所における歯科衛生士の雇用および実態やニーズ、歯科衛生士の望む勤務形態、復職の課題等を把握し、現在未就業の歯科衛生士に対する再就業支援の資料とするため、歯科衛生士及び歯科医師にそれぞれ調査を行った。

## 3. 対象

### 1) 歯科衛生士調査対象者

- (1) 調査対象 : 愛知県下在住の歯科衛生士
- (2) 調査対象人数 : 5,000 名 回答数 841/5,000 (16.8%)
- (3) 選定方法 : 愛知県内歯科衛生士養成校の卒業生で卒後 5 年から 20 年の者
- (4) 協力歯科衛生士養成校 : 愛知学院大学短期大学部歯科衛生学科  
名古屋市歯科医師会附属歯科衛生士専門学校  
豊橋歯科衛生士専門学校  
専門学校名古屋デンタル衛生士学院  
ナゴノ福祉歯科医療専門学校歯科衛生士科  
三河歯科衛生専門学校

名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校歯科衛生学科  
 慈恵医療福祉ファッション専門学校歯科衛生士学科

(※) 新設の為対象外

2) 歯科医師調査対象者

- (1) 調査対象 : 愛知県下全域の歯科診療所開設者
- (2) 調査対象数 : 3,723医療機関 回答数 1,565/3,723 (42.0%)

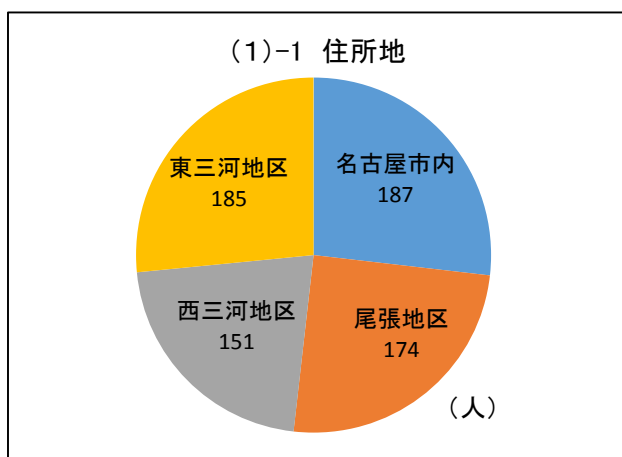
4. 調査結果

1) 歯科衛生士調査結果

(1)-1 住所地 回答数 697 地区不明 144

名古屋市内	尾張地区	西三河地区	東三河地区
187	174	151	185
(26.8%)	(25.0%)	(21.7%)	(26.5%)

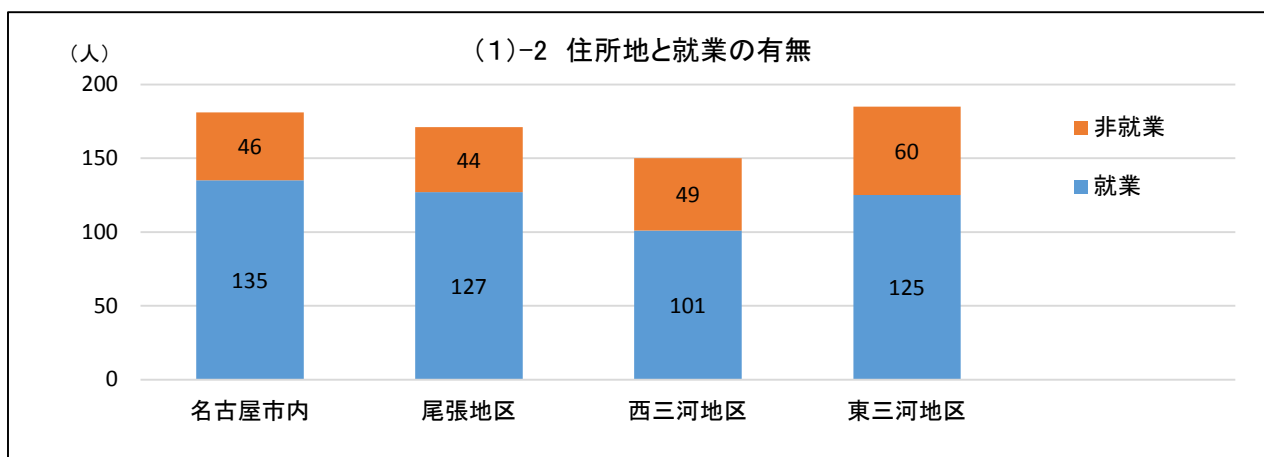
・回答は、名古屋市内、東三河地区が多く西三河地区が最も少なかった。



(1)-2 住所地と就業の有無

	就業	非就業	無回答	合計
名古屋市内	135(74.6%)	46(25.4%)	6	187
尾張地区	127(74.3%)	44(25.7%)	3	174
西三河地区	101(67.3%)	49(32.7%)	1	151
東三河地区	125(67.6%)	60(32.4%)	0	185
地区不明	99(68.8%)	45(31.3%)	0	144
合計	587(70.6%)	244(29.4%)	10	841

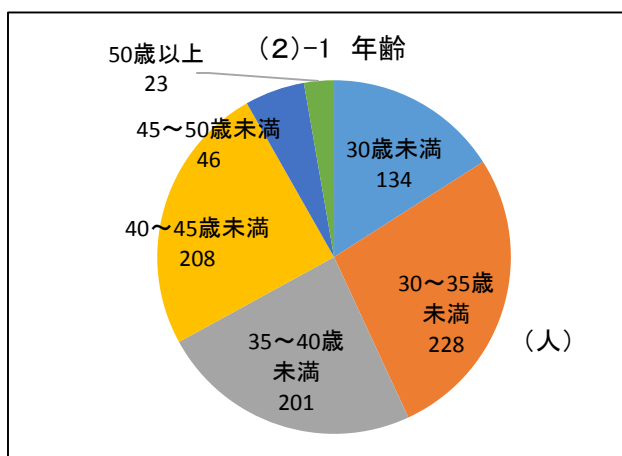
・就業者の割合は多い人順に、名古屋市内 74.6%、尾張地区 74.3%、東三河地区 67.6%、西三河地区 67.3%であった。



(2)-1 年齢 回答数 840 無回答 1

30歳未満	30～35歳未満	35～40歳未満	40～45歳未満	45～50歳未満	50歳以上
134	228	201	208	46	23
(16.0%)	(27.1%)	(23.9%)	(24.8%)	(5.5%)	(2.7%)

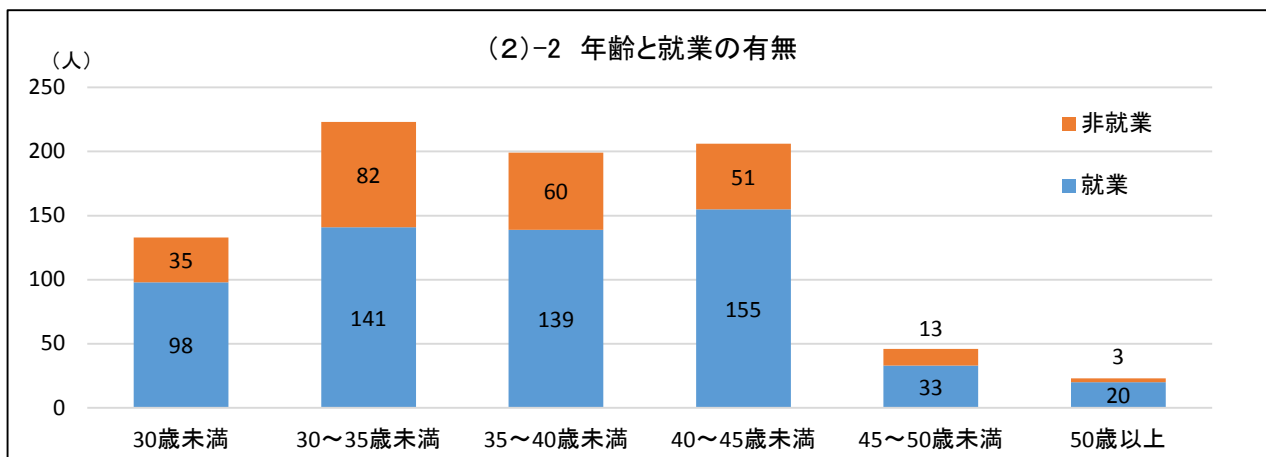
- ・回答者の年齢は30～35歳未満が一番多く、次いで40～45歳未満の順となった。30～45歳未満で全体の75.8%を占めた。



(2)-2 年齢と就業の有無

	就業	非就業	無回答	合計
30歳未満	98(73.7%)	35(26.3%)	1	134
30～35歳未満	141(63.2%)	82(36.8%)	5	228
35～40歳未満	139(69.8%)	60(30.2%)	2	201
40～45歳未満	155(75.2%)	51(24.8%)	2	208
45～50歳未満	33(71.7%)	13(28.3%)	0	46
50歳以上	20(87.0%)	3(13.0%)	0	23
無回答	1	0	0	1
合計	587(70.6%)	244(29.4%)	10	841

- ・就業者は、40～45歳未満が多く、45歳以上は9.0%(53/586)と1割以下であった。
- ・非就業者の割合は、30～35歳未満が一番多く、次いで35～40歳未満であった。



(3)-1 歯科医師会が行っている歯科衛生士再就業支援事業を知っているか(再就業支援事業の認知度)

回答数 838 無回答 3

- ① 知っている
- ② 知らない

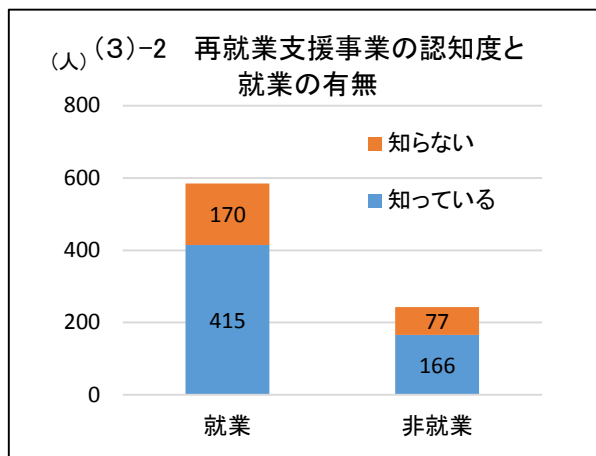
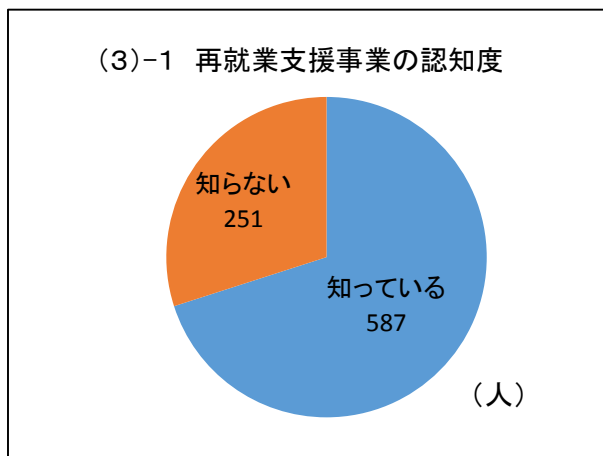
知っている	知らない
587	251
(70.0%)	(30.0%)

・知っているが7割であった。

(3)-2 再就業支援事業の認知度と就業の有無

	知っている	知らない	無回答	合計
就業	415 (70.9%)	170 (29.1%)	2	587
非就業	166 (68.3%)	77 (31.7%)	1	244
無回答	6	4	0	10
合計	587 (70.0%)	251 (30.0%)	3	841

・就業者、非就業者共に約7割に認知されているという結果であった。



(4)-1 歯科衛生士再チャレンジ研修会の広告を見たことがあるか(広告の認知度) 回答数 839 無回答 29

- ① ある
- ② ない

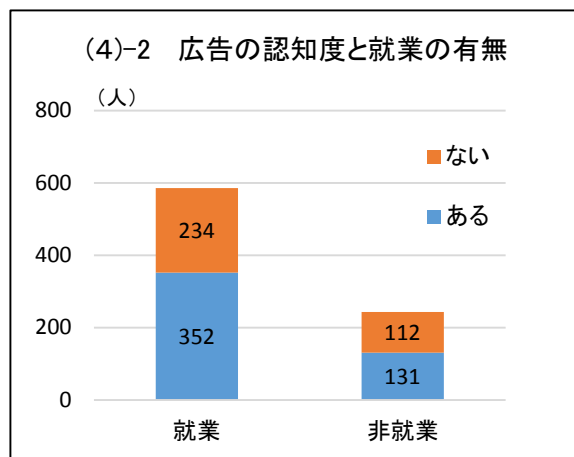
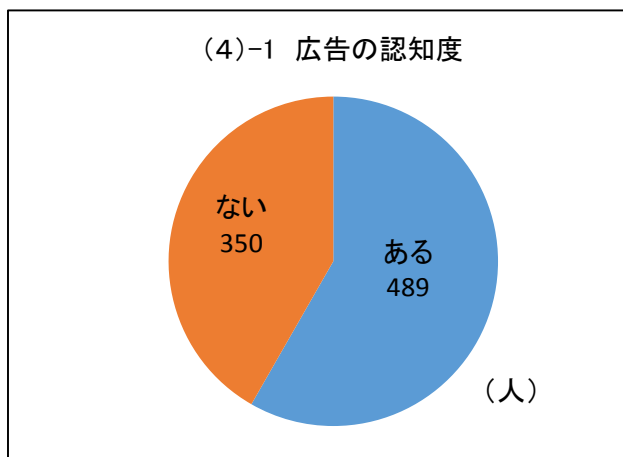
ある	ない
489	350
(58.3%)	(41.7%)

・およそ6割の認知度があった。

(4)-2 広告の認知度と就業の有無

	ある	ない	無回答	合計
就業	352 (60.1%)	234 (39.9%)	1	587
非就業	131 (53.9%)	112 (46.1%)	1	244
無回答	6	4	0	10
合計	489 (58.3%)	350 (41.7%)	2	841

・就業者に対し非就業者の認知度が6.2%低かった。



(5)-1 ADA 求人サイト(愛知県歯科医師会 HP、無料職業紹介所)の認知度 回答数 840 無回答 1

- ① 知っている
- ② 知らない

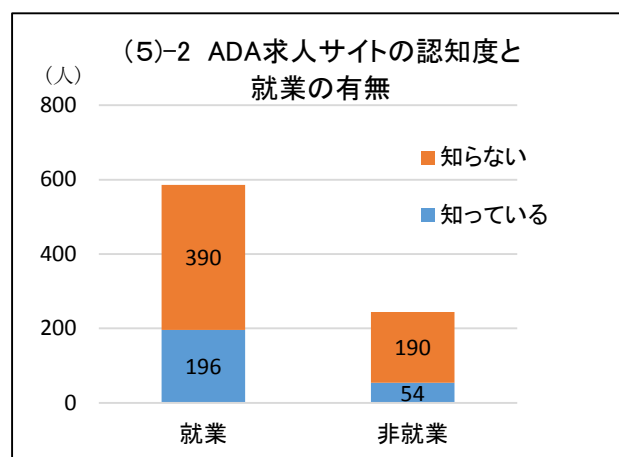
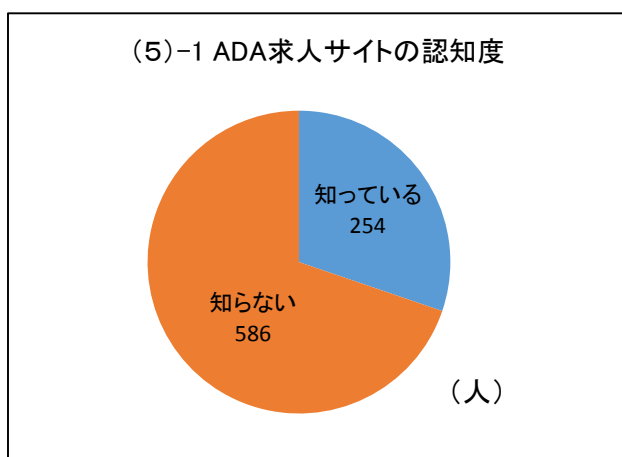
知っている	知らない
254	586
(30.2%)	(69.8%)

・全体で3割ほどの認知度であった。

(5)-2 ADA 求人サイトの認知度と就業の有無

	知っている	知らない	無回答	合計
就業	196 (33.4%)	390 (66.6%)	1	587
非就業	54 (22.1%)	190 (77.9%)	0	244
無回答	4	6	0	10
合計	254 (30.2%)	586 (69.8%)	1	841

・非就業の約8割が知らなかった。

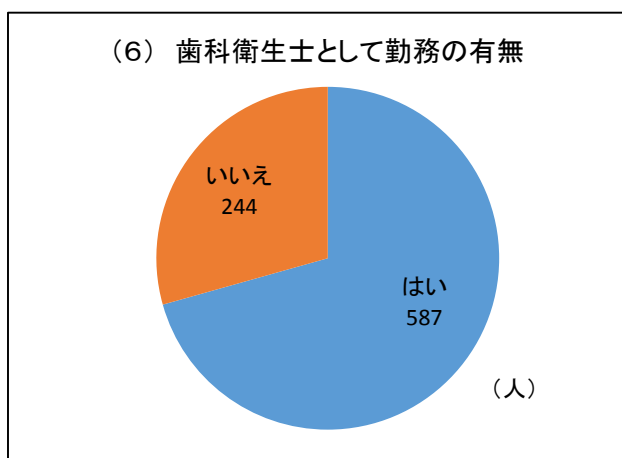


(6) 歯科衛生士として勤務の有無 回答数 831 無回答 10

- ① はい
- ② いいえ

はい	いいえ
587	244
(70.6%)	(29.4%)

・今回の調査における回答者の7割が就業者であった。



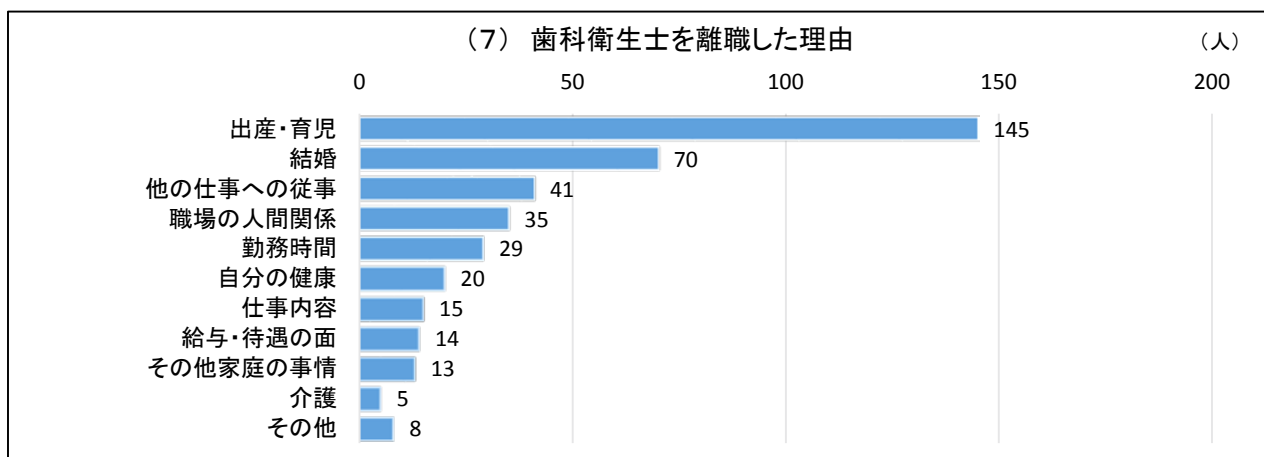
(7)から(14) 非就業者に質問 回答数 244

(7) 歯科衛生士を離職した理由(複数回答)

- ① 仕事内容
- ② 給与・待遇の面
- ③ 職場の人間関係
- ④ 勤務時間
- ⑤ 結婚
- ⑥ 出産・育児
- ⑦ 介護
- ⑧ その他家庭の事情
- ⑨ 自分の健康
- ⑩ 他の仕事への従事
- ⑪ その他

出産・育児	結婚	他の仕事への従事	職場の人間関係	勤務時間	自分の健康
145	70	41	35	29	20
(59.4%)	(28.7%)	(16.8%)	(14.3%)	(11.9%)	(8.2%)
仕事内容	給与・待遇の面	その他家庭の事情	介護	その他	
15	14	13	5	8	
(6.1%)	(5.7%)	(5.3%)	(2.0%)	(3.3%)	

・ 離職の理由で最も多いのが出産・育児であり、次いで結婚が多かった。



(8) 歯科衛生士としての離職期間

- ① 1年未満
- ② 1～3年未満
- ③ 3～5年未満
- ④ 5～10年未満
- ⑤ 10年以上

1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10年以上
30	54	43	67	50
(12.3%)	(22.1%)	(17.6%)	(27.5%)	(20.5%)



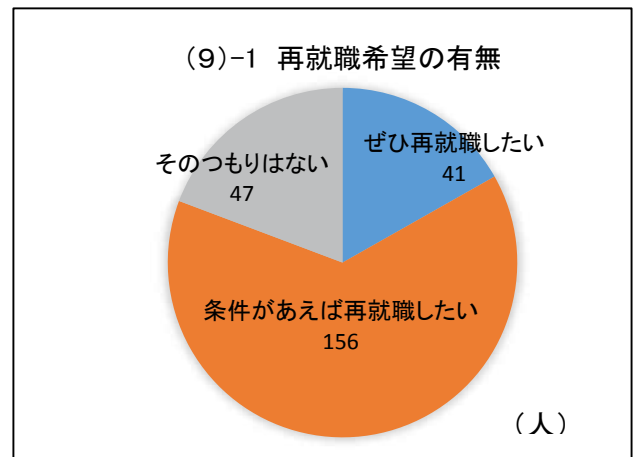
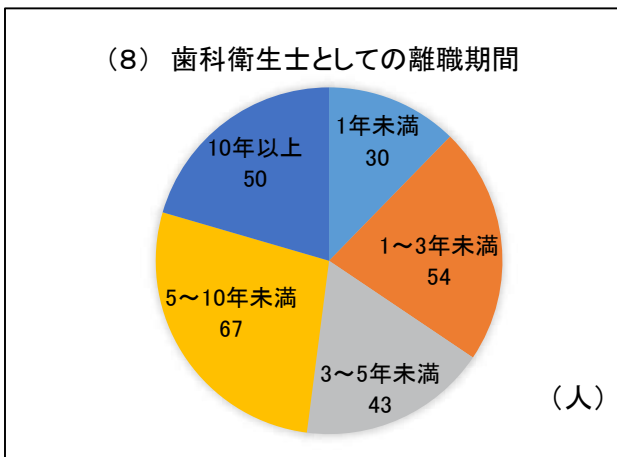
- ・ 5年以上の離職期間が約半数であった。
- ・ 1年未満が最も少なかった。

(9)-1 再就職希望の有無

- ① ぜひ再就職したい
- ② 条件があれば再就職したい
- ③ そのつもりはない

ぜひ再就職したい	条件があれば再就職したい	そのつもりはない
41	156	47
(16.8%)	(63.9%)	(19.3%)

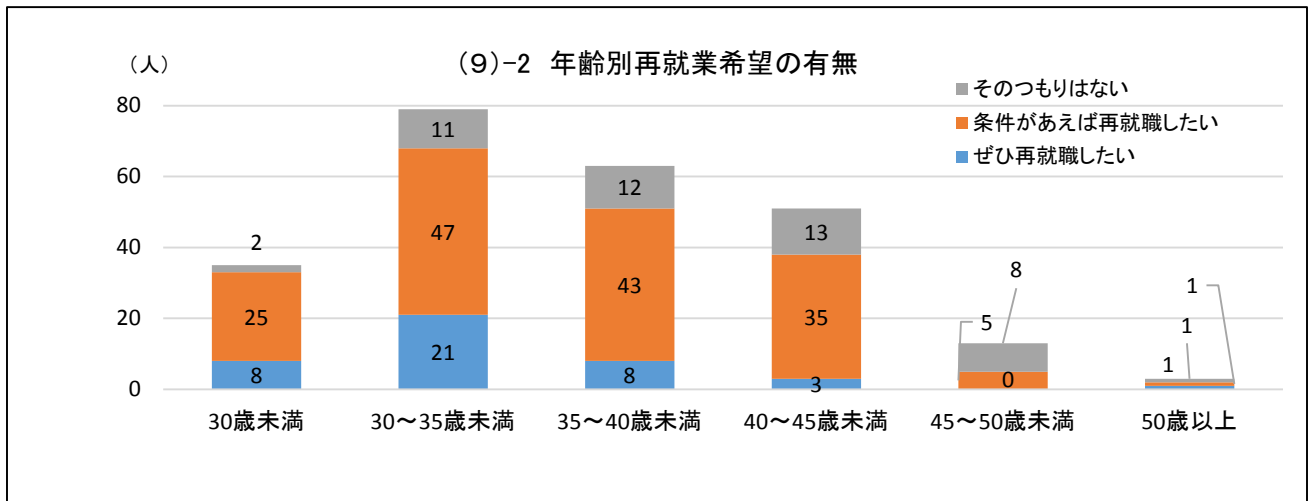
- ・ 離職者の8割が再就職を希望している。



(9)-2 年齢別再就職希望の有無

	ぜひ再就職したい	条件があれば再就職したい	そのつもりはない	合計
30歳未満	8(22.9%)	25(71.4%)	2(5.7%)	35
30~35歳未満	21(26.6%)	47(59.5%)	11(13.9%)	79
35~40歳未満	8(12.7%)	43(68.3%)	12(19.0%)	63
40~45歳未満	3(5.9%)	35(68.6%)	13(25.5%)	51
45~50歳未満	0	5(38.5%)	8(61.5%)	13
50歳以上	1(33.3%)	1(33.3%)	1(33.3%)	3
合計	41(16.8%)	156(63.9%)	47(19.3%)	244

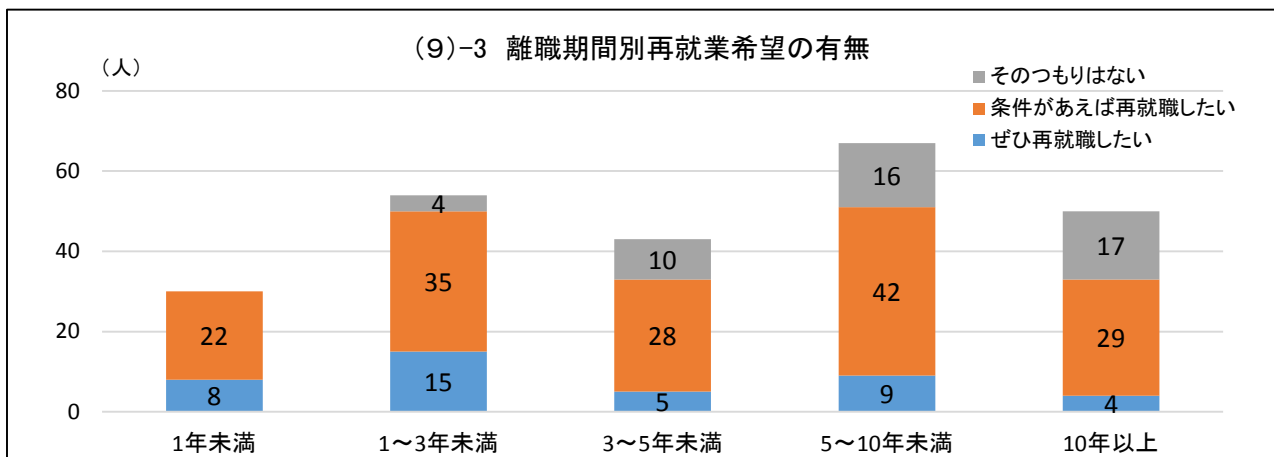
- ・ 30歳未満では94.3%が再就職を希望していた。
- ・ 45~50歳未満は再就職希望が最も少なかった。



(9)-3 離職期間別再就職希望の有無

	ぜひ再就職したい	条件があれば再就職したい	そのつもりはない	合計
1年未満	8(26.7%)	22(73.3%)	0	30
1～3年未満	15(27.8%)	35(64.8%)	4(7.4%)	54
3～5年未満	5(11.6%)	28(65.1%)	10(23.3%)	43
5～10年未満	9(13.4%)	42(62.7%)	16(23.9%)	67
10年以上	4(8.0%)	29(58.0%)	17(34.0%)	50
合計	41(16.8%)	156(63.9%)	47(19.3%)	244

- ・1年未満ではすべての回答者が再就職希望であった。
- ・1～3年未満では9割以上が再就職希望であったが、3年以上ではおよそ7割であった。



(10) 再就職時の参考求人媒体（複数回答）

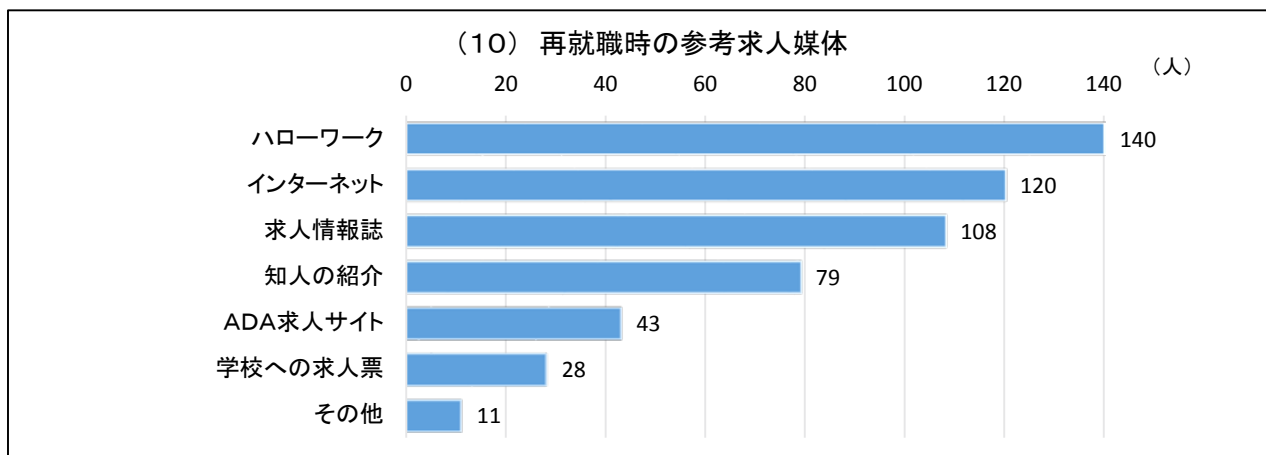
- ① 学校への求人票
- ② 求人情報誌
- ③ インターネット
- ④ ハローワーク
- ⑤ ADA 求人サイト

⑥ 知人の紹介

⑦ その他

ハローワーク	インターネット	求人情報誌	知人の紹介	ADA求人サイト	学校への求人票	その他
140	120	108	79	43	28	11
(57.4%)	(49.2%)	(44.3%)	(32.4%)	(17.6%)	(11.5%)	(4.5%)

・ハローワーク、インターネット、求人情報誌が再就職時の主な情報入手の手段であった。



(11) 再就職時の障害(複数回答)

① 給与・待遇の面

② 勤務時間

③ スキルや知識等の不安

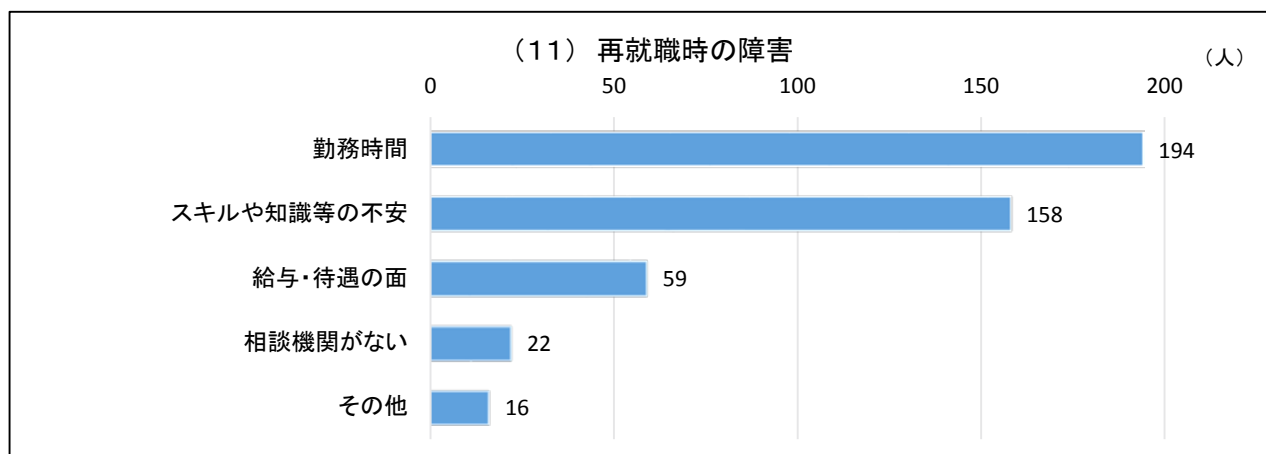
④ 相談機関がない

⑤ その他

勤務時間	スキルや知識等の不安	給与・待遇の面	相談機関がない	その他
194	158	59	22	16
(79.5%)	(64.8%)	(24.2%)	(9.0%)	(6.6%)

・勤務時間が最も多く、次いでスキルや知識等の不安が最も再就職を考える上で障害になっていた。

・相談機関がないは9.0%であった。



(12) 再就職時に望むサービス・サポート（複数回答）

- ① 研修事業
- ② 相談窓口
- ③ 良好な職場環境の整備
- ④ その他

良好な職場環境の整備	研修事業	相談窓口	その他
190	95	82	16
(77.9%)	(38.9%)	(33.6%)	(6.6%)

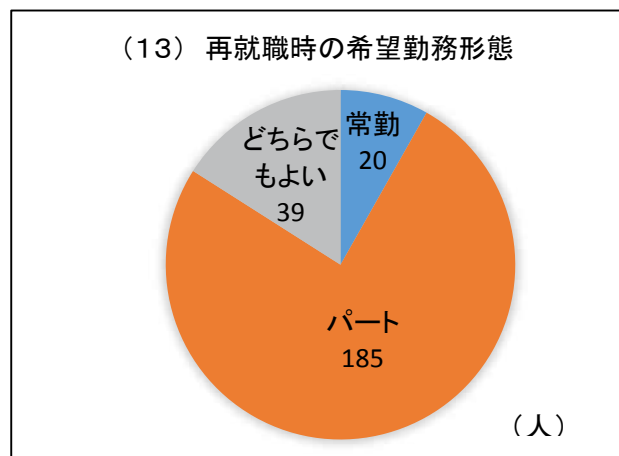
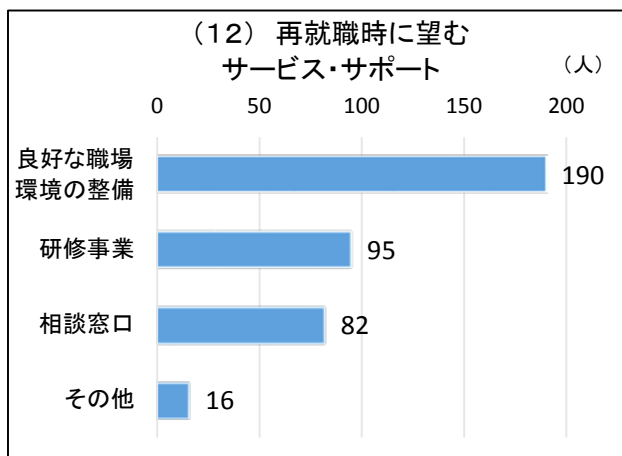
- ・ 良好な職場環境の整備が最も多く約 8 割であった。
- ・ 研修事業が約 4 割、相談窓口が約 3 割であった。

(13) 再就職時の希望勤務形態

- ① 常勤
- ② パート
- ③ どちらでもよい

常勤	パート	どちらでもよい
20	185	39
(8.2%)	(75.8%)	(16.0%)

- ・ 常勤希望は 1 割以下であった。



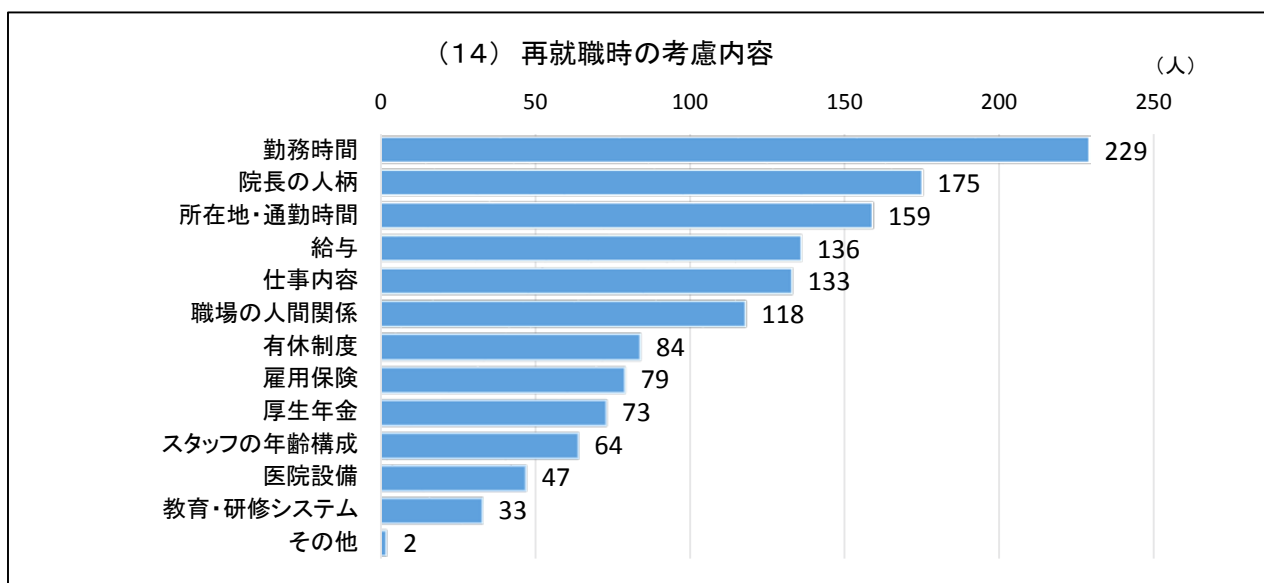
(14) 再就職時の考慮内容（複数回答）

- ① 給与（昇給・賞与含む）
- ② 勤務時間
- ③ 有休制度
- ④ 雇用保険
- ⑤ 厚生年金
- ⑥ 所在地・通勤時間
- ⑦ 医院設備

- ⑧ スタッフの年齢構成
- ⑨ 職場の人間関係
- ⑩ 院長の人柄
- ⑪ 教育・研修システム
- ⑫ 仕事内容
- ⑬ その他

勤務時間	院長の人柄	所在地・通勤時間	給与(昇給・賞与含む)	仕事内容
229 (93.9%)	175 (71.7%)	159 (65.2%)	136 (55.7%)	133 (54.5%)
職場の人間関係	有休制度	雇用保険	厚生年金	スタッフの年齢構成
118 (48.4%)	84 (34.4%)	79 (32.4%)	73 (29.9%)	64 (26.2%)
医院設備	教育・研修システム	その他		
47 (19.3%)	33 (13.5%)	2 (0.8%)		

- ・勤務時間が9割以上で最も多かった。
- ・院長の人柄、所在地・通勤時間、給与、仕事内容は、5割以上で、有休制度、雇用保険、厚生年金は約3割であった。

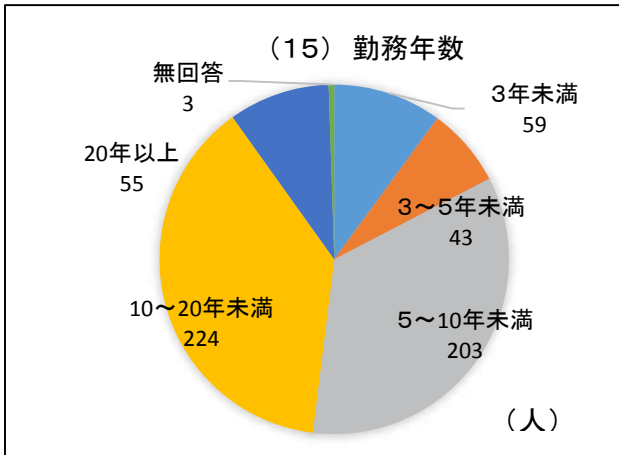


(15)から(21)就業者に質問 回答数 587

(15) 現職歯科衛生士の勤務年数 回答数 584 無回答 3

- ① 3年未満
- ② 3～5年未満
- ③ 5～10年未満
- ④ 10～20年未満
- ⑤ 20年以上

3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上
59 (10.1%)	43 (7.4%)	203 (34.8%)	224 (38.4%)	55 (9.4%)



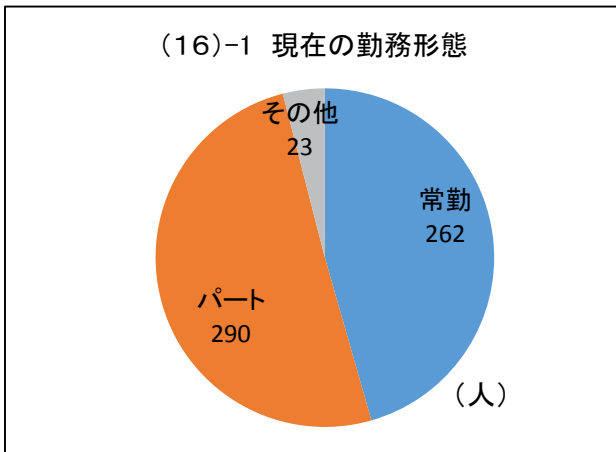
- ・ 5年以上勤務が8割以上であった。
- ・ 3～5年未満が最も少なかった。

(16)-1 現在の勤務形態 回答数 575 無回答 12

- ① 常勤
- ② パート
- ③ その他

常勤	パート	その他
262	290	23
(45.6%)	(50.4%)	(4.0%)

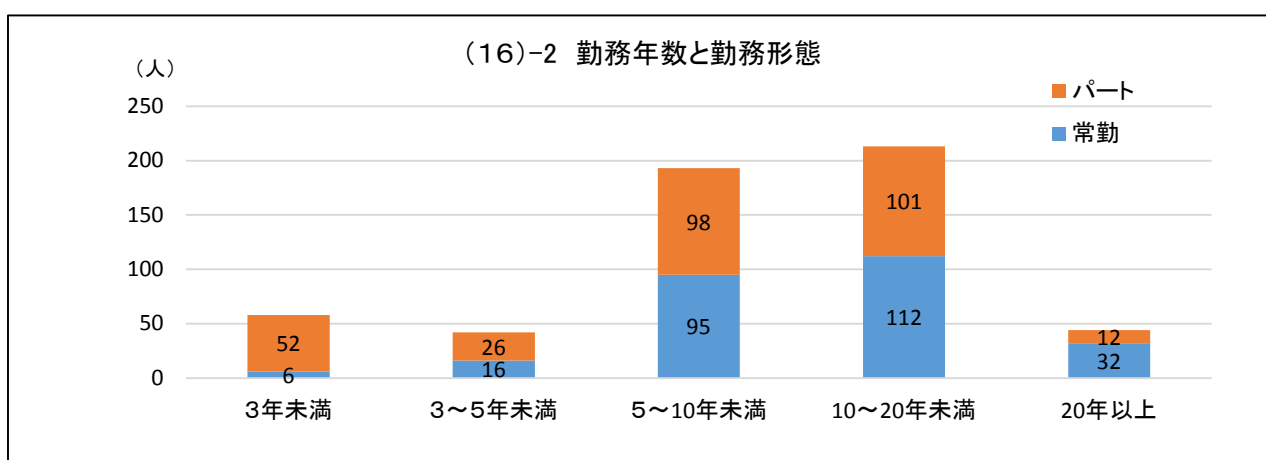
- ・ ややパートが多いが、ほぼ半々の割合であった。



(16)-2 勤務年数と勤務形態

	常勤	パート	その他	無回答	合計
3年未満	6(10.3%)	52(89.7%)	0	1	59
3～5年未満	16(37.2%)	26(60.5%)	1(2.3%)	0	43
5～10年未満	95(47.7%)	98(49.2%)	6(3.0%)	4	203
10～20年未満	112(50.2%)	101(45.3%)	10(4.5%)	1	224
20年以上	32(64.0%)	12(24.0%)	6(12.0%)	5	55
無回答	1	1	0	1	3
合計	262(45.6%)	290(50.4%)	23(4.0%)	12	587

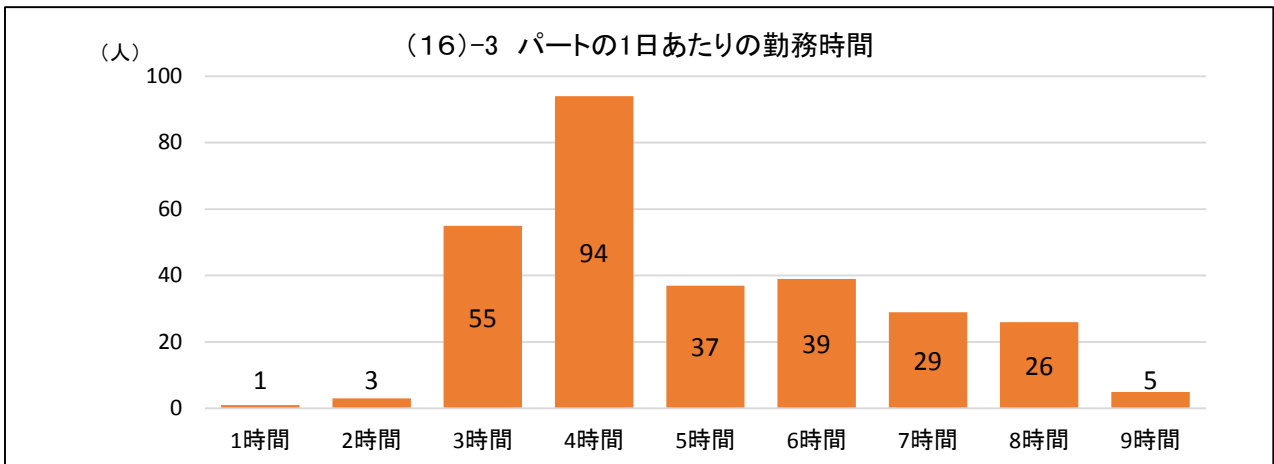
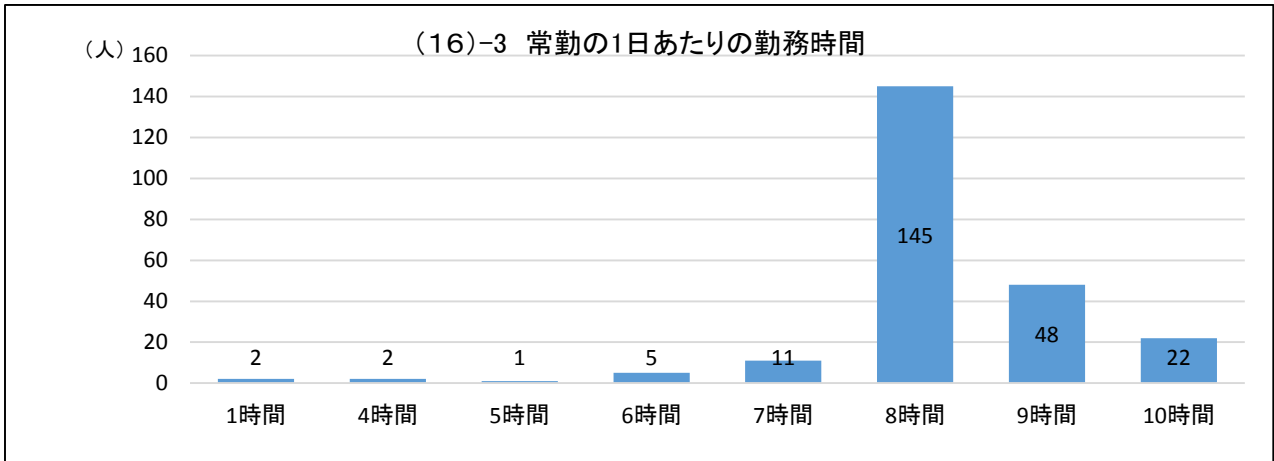
- ・ 5年未満では常勤よりもパートの方が多かった。
- ・ 5年以上 20年未満では常勤とパートはほぼ同じであり 20年以上では常勤の方が多かった。
- ・ 常勤の9割以上が5年以上であった。



(16)-3 1日あたりの勤務時間と勤務形態

	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間	無回答	合計
常勤	2 (0.8%)	0	0	2 (0.8%)	1 (0.4%)	5 (2.1%)	11 (4.7%)	145 (61.4%)	48 (20.3%)	22 (9.3%)	26	262
パート	1 (0.3%)	3 (1.0%)	55 (19.0%)	94 (32.5%)	37 (12.8%)	39 (13.5%)	29 (10.0%)	26 (9.0%)	5 (1.7%)	0	1	290
その他	0	0	3 (18.8%)	4 (25.0%)	2 (12.5%)	6 (37.5%)	0	1 (6.3%)	0	0	7	23
無回答	2	1	3	2	0	0	0	4	0	0	0	12
合計	5 (0.9%)	4 (0.7%)	61 (11.0%)	102 (18.4%)	40 (7.2%)	50 (9.0%)	40 (7.2%)	176 (31.8%)	53 (9.6%)	22 (4.0%)	34	587

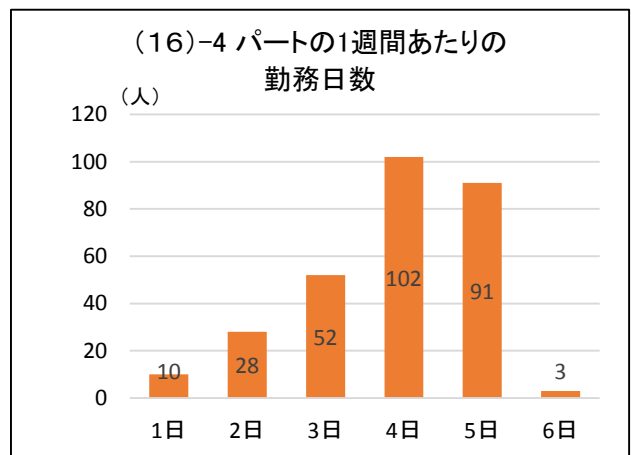
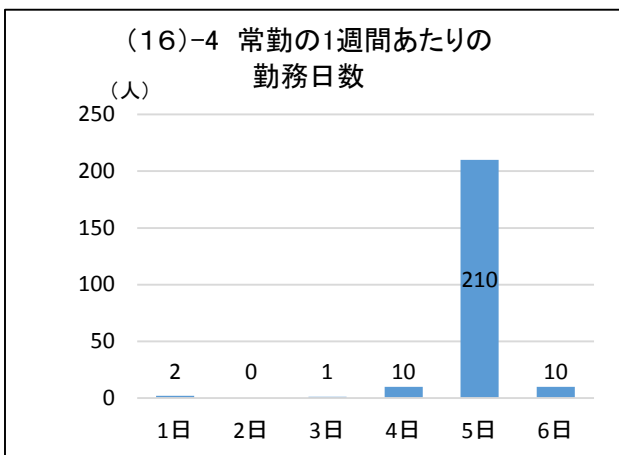
- ・ 常勤は8時間、パートは4時間が最も多かった。



(16)-4 1週間あたりの勤務日数と勤務形態

	1日	2日	3日	4日	5日	6日	無回答	合計
常勤	2 (0.9%)	0	1 (0.4%)	10 (4.3%)	210 (90.1%)	10 (4.3%)	29	262
パート	10 (3.5%)	28 (9.8%)	52 (18.2%)	102 (35.7%)	91 (31.8%)	3 (1.0%)	4	290
その他	1 (6.7%)	0	5 (33.3%)	3 (20.0%)	6 (40.0%)	0	8	23
無回答	4	0	1	0	6	0	1	12
合計	17 (3.1%)	28 (5.1%)	59 (10.8%)	115 (21.1%)	313 (57.4%)	13 (2.4%)	42	587

・常勤は週5日間勤務、パートは週4日間勤務が最も多かった。





(17) 主たる勤務先

- ① 歯科診療所
- ② 病院歯科
- ③ 介護老人保健施設等
- ④ 行政
- ⑤ 企業
- ⑥ その他

歯科診療所	病院歯科	介護老人保健施設等	行政	企業	その他
483	39	8	27	3	27
(82.3%)	(6.6%)	(1.4%)	(4.6%)	(0.5%)	(4.6%)

・ 歯科診療所の割合が 8 割以上であった。

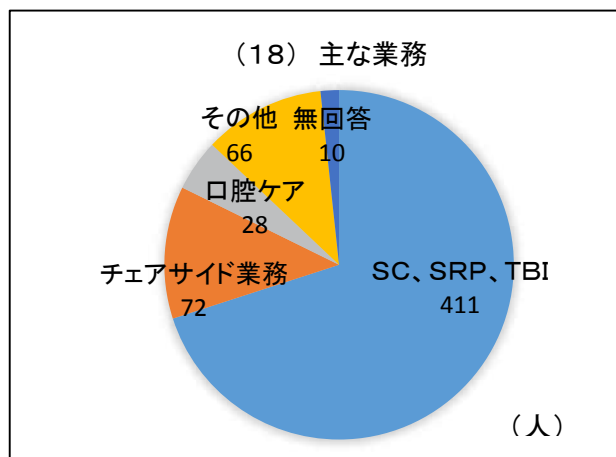
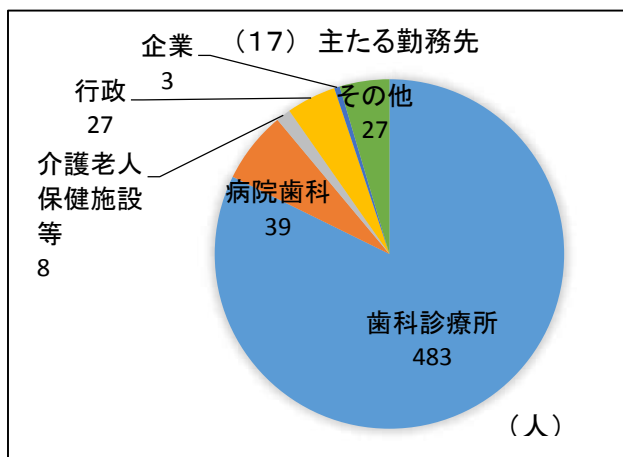
(18) 主な業務 回答数 577 無回答 10

- ① SC、SRP、TBI
- ② 口腔ケア(訪問診療)
- ③ チェアサイド業務
- ④ その他

SC、SRP、TBI	チェアサイド業務	口腔ケア(訪問診療)	その他
411	72	28	66
(71.2%)	(12.5%)	(4.9%)	(11.4%)

・ SC、SRP、TBI とチェアサイド業務を合わせて 8 割以上であった。

・ 口腔ケア(訪問診療)は 4.9%であった。

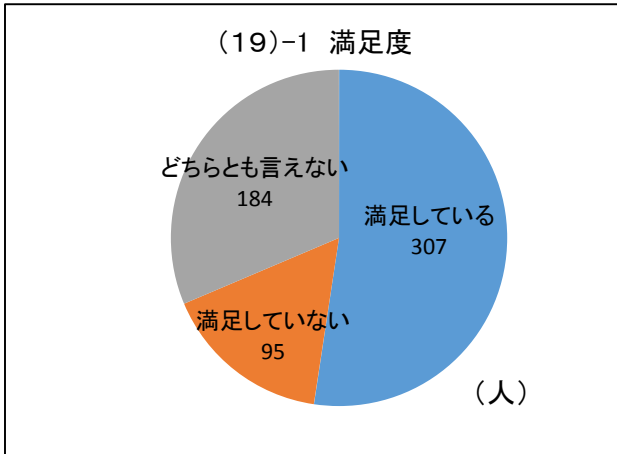


(19)-1 仕事内容や勤務形態の満足度 回答数 586 無回答 1

- ① 満足している
- ② 満足していない
- ③ どちらとも言えない

満足している	満足していない	どちらとも言えない
307	95	184
(52.4%)	(16.2%)	(31.4%)

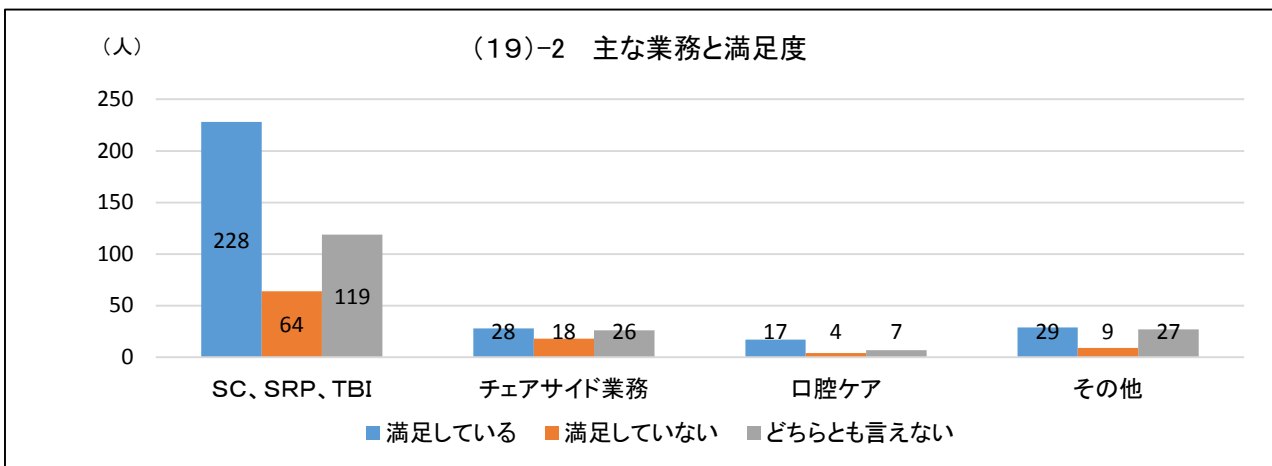
- ・ 仕事内容や勤務形態に満足しているが約半数であった。
- ・ 仕事内容や勤務形態に満足していないは 16.2%であった。



(19)-2 主な業務と満足度

	満足している	満足していない	どちらとも言えない	無回答	合計
SC、SRP、TBI	228 (55.5%)	64 (15.6%)	119 (29.0%)	0	411
チェアサイド業務	28 (38.9%)	18 (25.0%)	26 (36.1%)	0	72
口腔ケア(訪問歯科)	17 (60.7%)	4 (14.3%)	7 (25.0%)	0	28
その他	29 (44.6%)	9 (13.8%)	27 (41.5%)	1	66
無回答	5	0	5	0	10
合計	307(52.4%)	95(16.2%)	184(31.4%)	1	587

- ・ チェアサイド業務は、満足していないが 25.0%と他の仕事内容と比較して高かった。
- ・ 口腔ケア(訪問歯科)は、満足しているが 60.7%と他の仕事内容と比較して高かった。



(20) 満足している方 満足されている事柄（複数回答）回答数 307

- ① 給与(昇給・賞与含む)
- ② 勤務時間
- ③ 有休制度
- ④ 雇用保険
- ⑤ 厚生年金
- ⑥ 所在地・通勤時間
- ⑦ 医院設備
- ⑧ スタッフの年齢構成
- ⑨ 職場の人間関係
- ⑩ 院長の人柄
- ⑪ 教育・研修システム
- ⑫ 仕事内容
- ⑬ その他

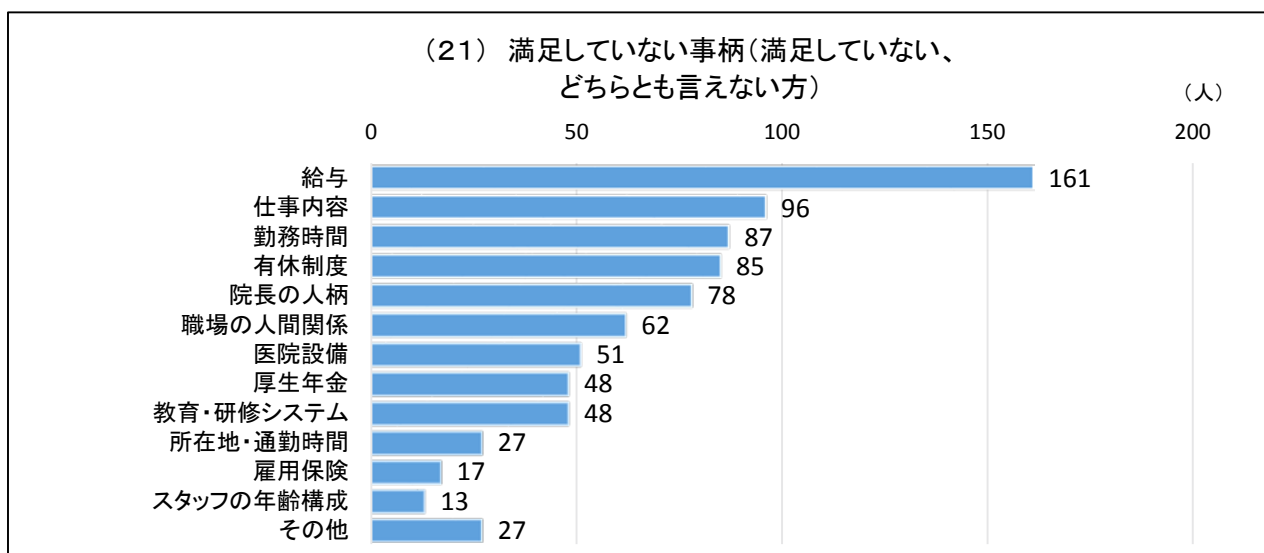
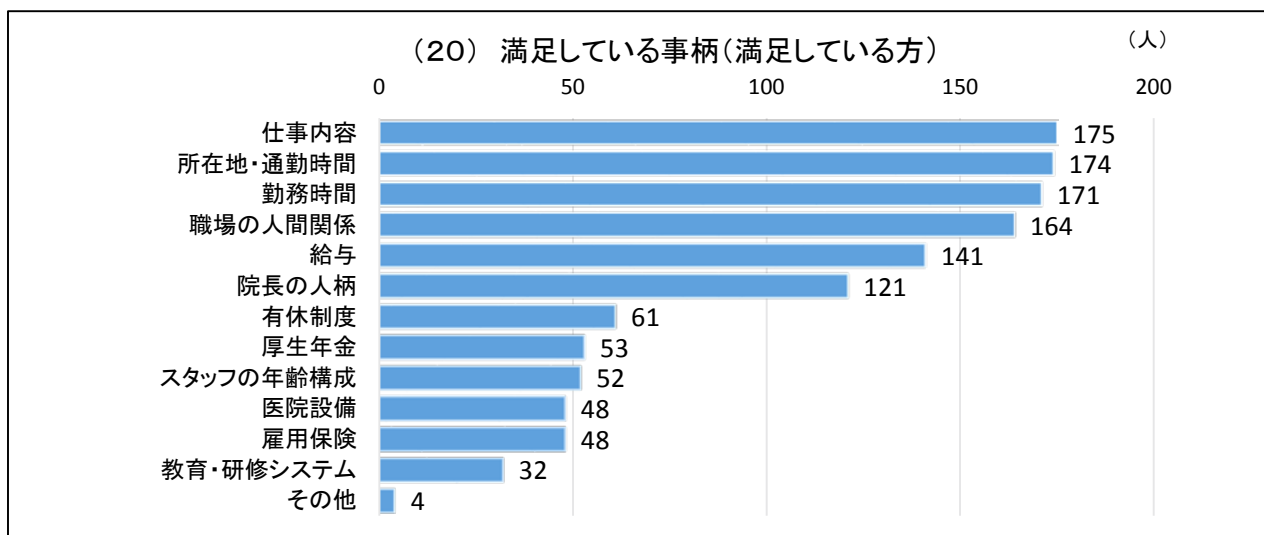
仕事内容	所在地・通勤時間	勤務時間	職場の人間関係	給与(昇給・賞与含む)
175 (57.0%)	174 (56.7%)	171 (55.7%)	164 (53.4%)	141 (45.9%)
院長の人柄	有休制度	厚生年金	スタッフの年齢構成	医院設備
121 (39.4%)	61 (19.9%)	53 (17.3%)	52 (16.9%)	48 (15.6%)
雇用保険	教育・研修システム	その他		
48 (15.6%)	32 (10.4%)	4 (1.3%)		

- ・ 仕事内容、所在地・通勤時間、勤務時間、職場の人間関係が 50%以上であった。
- ・ 教育・研修システムは 1 割であった。

(21) 満足していない、どちらとも言えない方 満足されない事柄（複数回答）回答数 279

給与(昇給・賞与含む)	仕事内容	勤務時間	有休制度	院長の人柄
161 (57.7%)	96 (34.4%)	87 (31.2%)	85 (30.5%)	78 (28.0%)
職場の人間関係	医院設備	厚生年金	教育・研修システム	所在地・通勤時間
62 (22.2%)	51 (18.3%)	48 (17.2%)	48 (17.2%)	27 (9.7%)
雇用保険	スタッフの年齢構成	その他		
17 (6.1%)	13 (4.7%)	27 (9.7%)		

- ・ 給与が 57.7%と最も多かった。
- ・ 仕事内容、勤務時間、有休制度、院長の人柄は約 3 割であった。



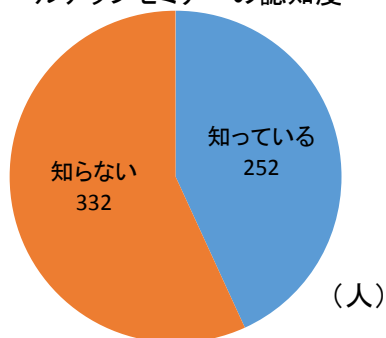
(22) 歯科医師会開催のレベルアップセミナーの認知度 回答数 584 無回答 3

- ① 知っている
- ② 知らない

知っている	知らない
252	332
(43.2%)	(56.8%)

・知らないが約6割、知っているが約4割であった。

(22) 歯科医師会開催の  
レベルアップセミナーの認知度



2) 歯科医師調査結果

(1)-1 地区名 回答数 1561 地区不明 4

名古屋地区	尾張地区	三河地区
591	592	378
(37.9%)	(37.9%)	(24.2%)

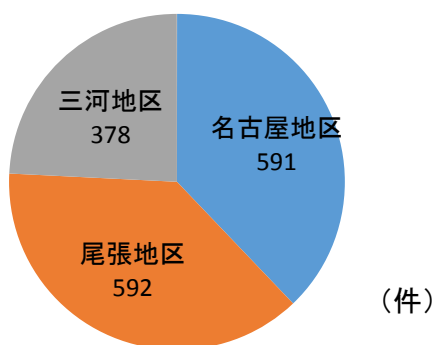
・三河地区が少なかった。

(1)-2 地区別回答率

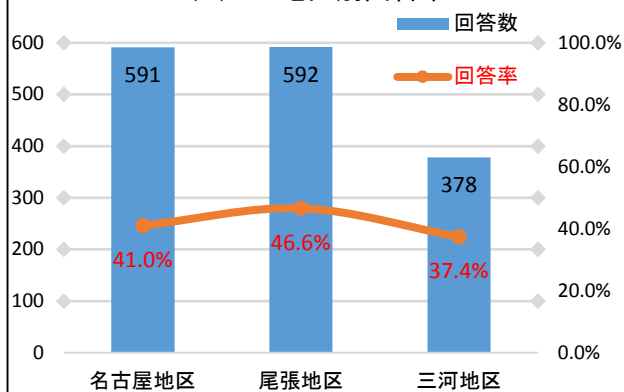
	回答数	調査対象医療機関数	回答率
名古屋地区	591	1443	41.0%
尾張地区	592	1270	46.6%
三河地区	378	1010	37.4%
地区不明	4	0	
合計	1565	3723	42.0%

・地区別の回答率は、尾張地区 46.6%、名古屋地区 41.0%、三河地区 37.4%であった。

(1)-1 開業地区(地区名)



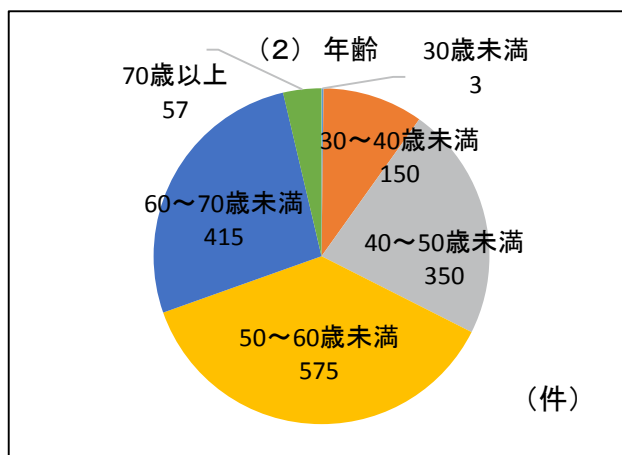
(1)-2 地区別回答率



(2) 年齢 回答数1550 無回答15

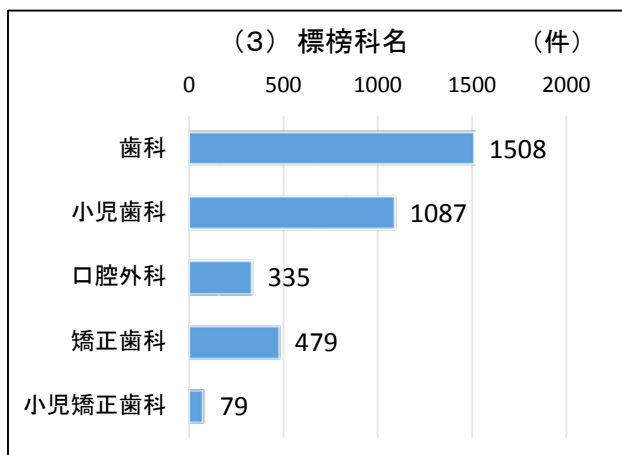
30歳未満	30～40歳未満	40～50歳未満	50～60歳未満	60～70歳未満	70歳以上
3	150	350	575	415	57
(0.2%)	(9.7%)	(22.6%)	(37.1%)	(26.8%)	(3.7%)

- ・ 50～60歳未満が最も多く37.1%あった。次いで60～70歳未満が26.8%であった。
- ・ 40～70歳未満で、86.5%を占めた。
- ・ 30歳未満はもっとも少なく3名であった



(3) 標榜科名(複数回答) 回答数1547 無回答18

歯科	小児歯科	口腔外科	矯正歯科	小児矯正歯科
1508	1087	335	479	79
(97.5%)	(70.3%)	(21.7%)	(31.0%)	(5.1%)



(4)-1 スタッフ構成

a. 歯科医師 回答数1560 無回答5

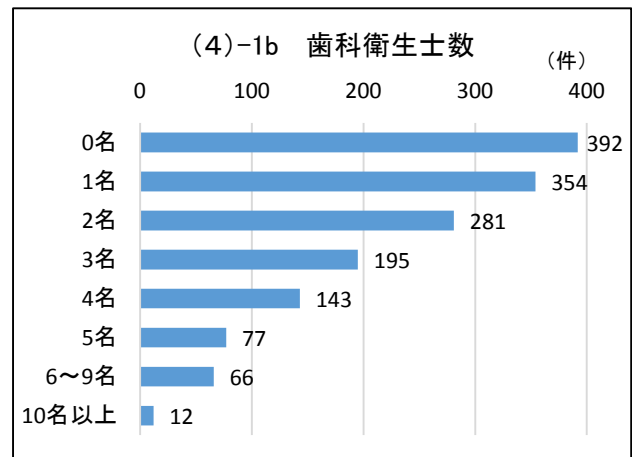
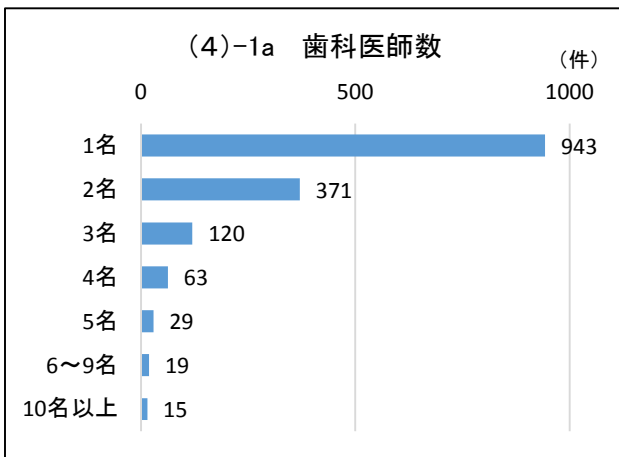
1名	2名	3名	4名	5名	6～9名	10名以上
943	371	120	63	29	19	15
(60.4%)	(23.8%)	(7.7%)	(4.0%)	(1.9%)	(1.2%)	(1.0%)

- ・歯科医師数は1名が60.4%で最も多く、次いで2名の23.8%であった。
- ・5名以上は4.1%であった。

b. 歯科衛生士 回答数1520 無回答45

0名	1名	2名	3名	4名	5名	6~9名	10名以上
392	354	281	195	143	77	66	12
(25.8%)	(23.3%)	(18.5%)	(12.8%)	(9.4%)	(5.1%)	(4.3%)	(0.8%)

- ・歯科衛生士数は0名が25.8%で最も多く、次いで1名の23.3%であった。
- ・5名以上は約1割であった



c. 歯科助手 回答数1533 無回答32

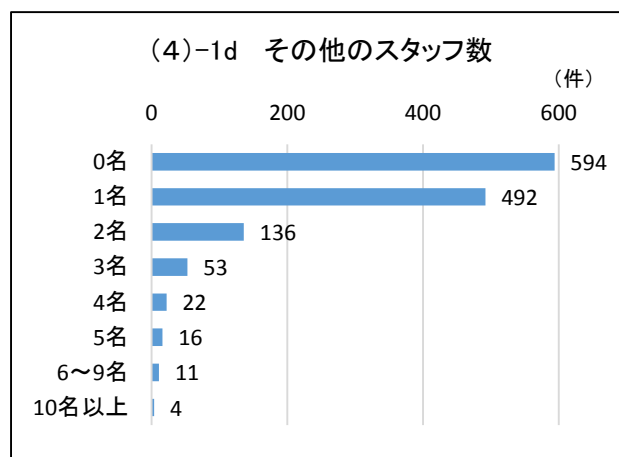
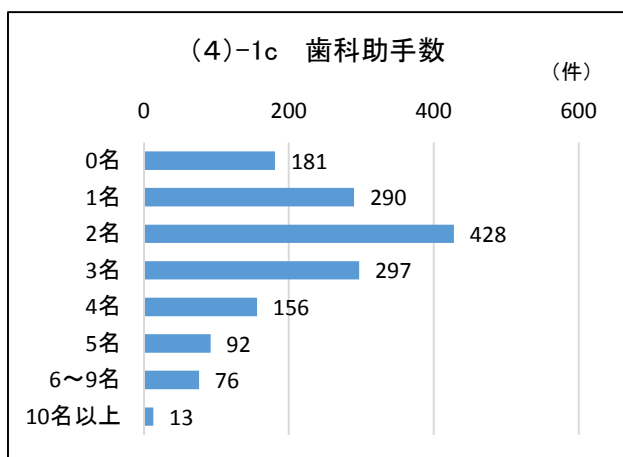
0名	1名	2名	3名	4名	5名	6~9名	10名以上
181	290	428	297	156	92	76	13
(11.8%)	(18.9%)	(27.9%)	(19.4%)	(10.2%)	(6.0%)	(5.0%)	(0.8%)

- ・歯科助手数は2名が27.9%で最も多く、次いで3名の19.4%であった。
- ・1~3名は約7割であった。

d. その他のスタッフ 回答数1328 無回答237

0名	1名	2名	3名	4名	5名	6~9名	10名以上
594	492	136	53	22	16	11	4
(44.7%)	(37.0%)	(10.2%)	(4.0%)	(1.7%)	(1.2%)	(0.8%)	(0.3%)

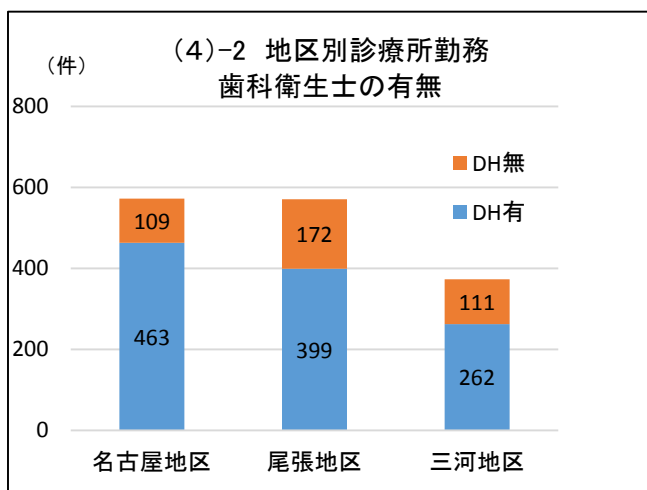
- ・その他のスタッフは0名が44.7%で最も多く、次いで1名の37.0%であった。



(4)-2 地区別診療所勤務歯科衛生士の有無

	DH有	DH無	無回答	合計
名古屋地区	463 (80.9%)	109 (19.1%)	19	591
尾張地区	399 (69.9%)	172 (30.1%)	21	592
三河地区	262 (70.2%)	111 (29.8%)	5	378
無回答	4	0	0	4
合計	1128 (74.2%)	392 (25.8%)	45	1565

- ・歯科衛生士有の診療所の割合は名古屋地区で約8割、尾張、三河地区で約7割であった。
- ・歯科衛生士有の診療所の割合が、尾張、三河地区に比べ名古屋地区が10%程高かった。

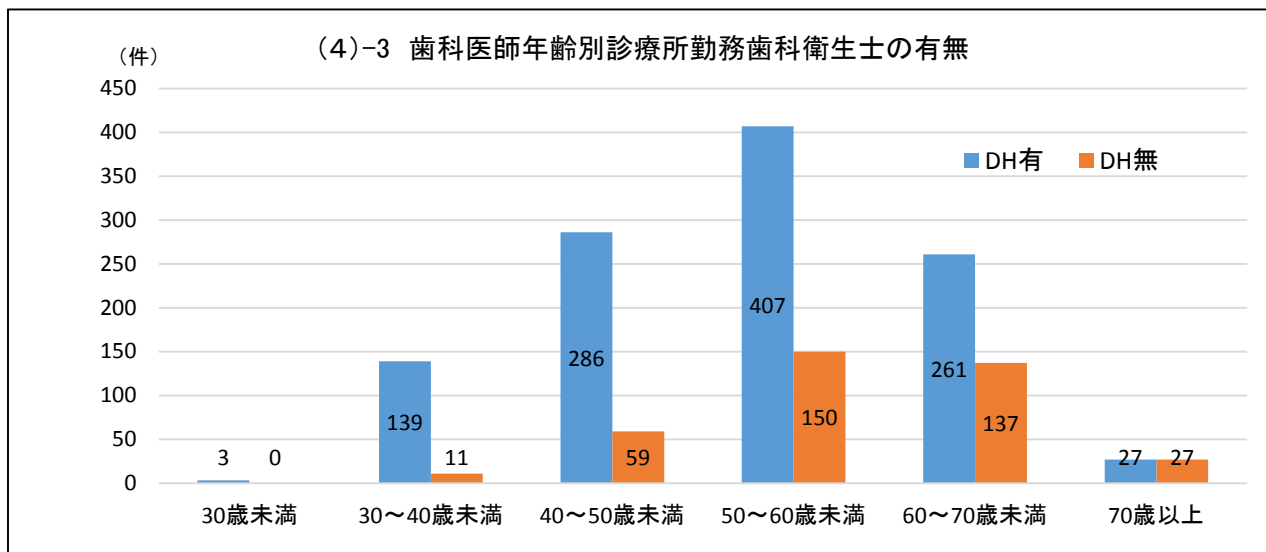




(4)-3 歯科医師年齢別診療所勤務歯科衛生士の有無

	DH有	DH無	無回答	合計
30歳未満	3 (100.0%)	0	0	3
30～40歳未満	139 (92.7%)	11 (7.3%)	0	150
40～50歳未満	286 (82.9%)	59 (17.1%)	5	350
50～60歳未満	407 (73.1%)	150 (26.9%)	18	575
60～70歳未満	261 (65.6%)	137 (34.4%)	17	415
70歳以上	27 (50.0%)	27 (50.0%)	3	57
無回答	5	8	2	15
合計	1128 (74.2%)	392 (25.8%)	45	1565

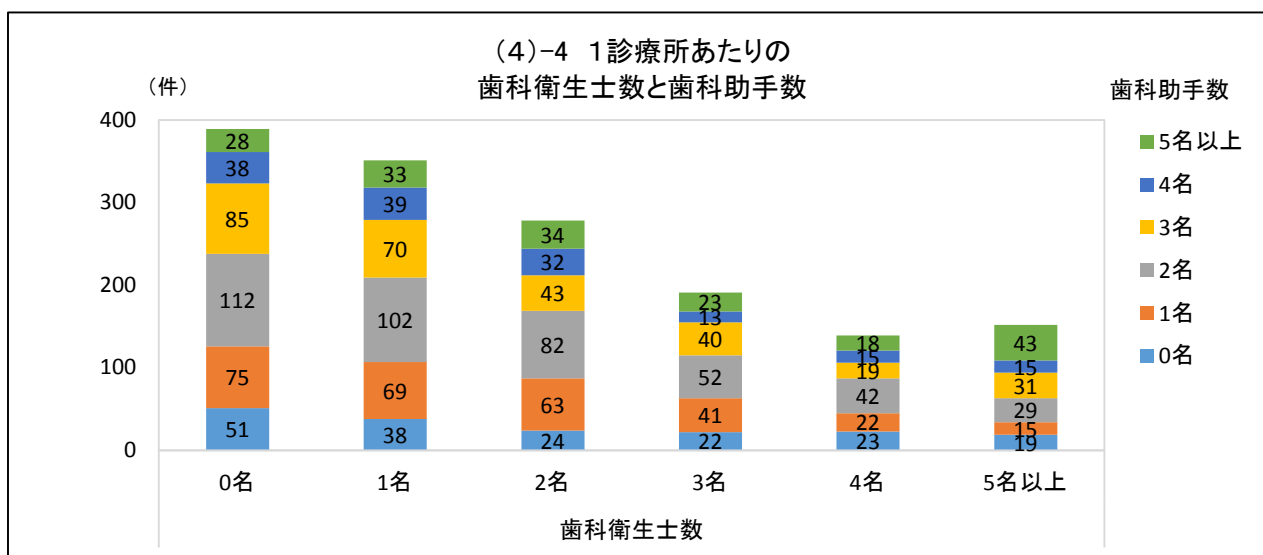
- ・年代が若くなるほど歯科衛生士のいる割合が高かった。
- ・50歳未満では歯科衛生士有が80%以上だった。
- ・70歳以上は歯科衛生士有と無が同数であった。



(4)-4 1診療所あたりの歯科衛生士数と歯科助手数

DA \ DH	0名	1名	2名	3名	4名	5名以上	無回答	合計
0名	51 (13.1%)	75 (19.3%)	112 (28.8%)	85 (21.9%)	38 (9.8%)	28 (7.2%)	3	392
1名	38 (10.8%)	69 (19.7%)	102 (29.1%)	70 (19.9%)	39 (11.1%)	33 (9.4%)	3	354
2名	24 (8.6%)	63 (22.7%)	82 (29.5%)	43 (15.5%)	32 (11.5%)	34 (12.2%)	3	281
3名	22 (11.5%)	41 (21.5%)	52 (27.2%)	40 (20.9%)	13 (6.8%)	23 (12.0%)	4	195
4名	23 (16.5%)	22 (15.8%)	42 (30.2%)	19 (13.7%)	15 (10.8%)	18 (12.9%)	4	143
5名以上	19 (12.5%)	15 (9.9%)	29 (19.1%)	31 (20.4%)	15 (9.9%)	43 (28.3%)	3	155
無回答	4	5	9	9	4	2	12	45
合計	181	290	428	297	156	181	32	1565

- ・「歯科衛生士 0名 歯科助手 2名」が112診療所で最も多く、次いで「歯科衛生士 1名 歯科助手 2名」の102診療所の順であった。

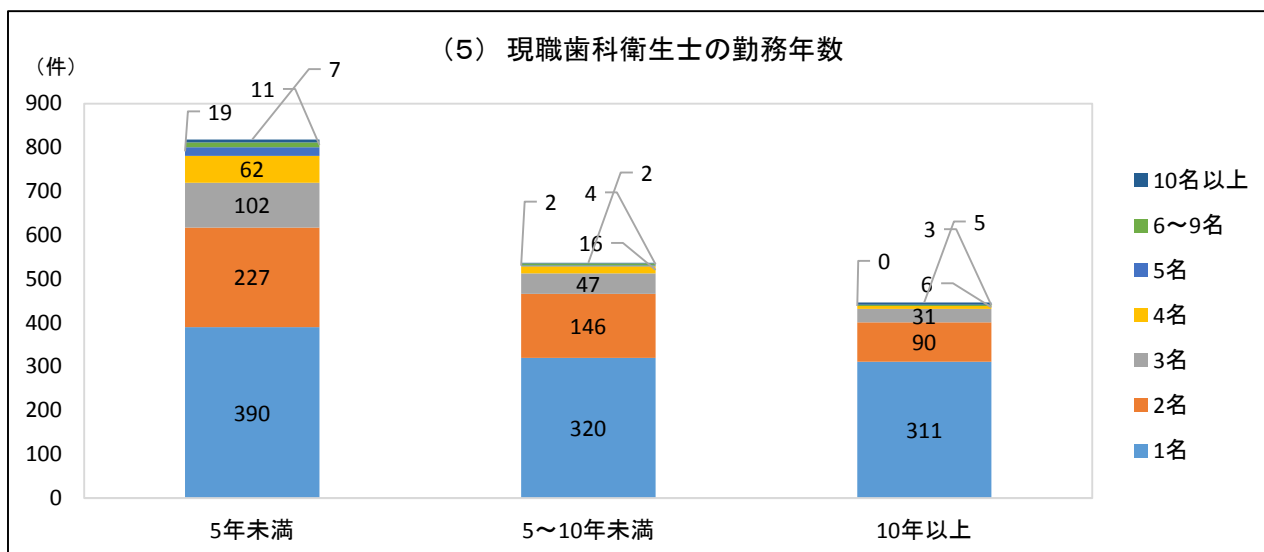


(5) 現職歯科衛生士の勤務年数

- ① 5年未満 回答数1089 無回答476
- ② 5～10年未満 回答数958 無回答607
- ③ 10年以上 回答数919 無回答646

	勤務なし	1名	2名	3名	4名	5名	6～9名	10名以上
5年未満	271	390 (47.7%)	227 (27.8%)	102 (12.5%)	62 (7.6%)	19 (2.3%)	11 (1.3%)	7 (0.9%)
5～10年未満	421	320 (59.6%)	146 (27.2%)	47 (8.8%)	16 (3.0%)	2 (0.4%)	4 (0.7%)	2 (0.4%)
10年以上	473	311 (69.7%)	90 (20.2%)	31 (7.0%)	6 (1.3%)	0	3 (0.7%)	5 (1.1%)

・現職歯科衛生士の勤務年数は、5年未満、5～10年未満、10年以上すべての階層で1名が多かった。また、同じ階層に2名以上勤務している場合は、年数を増す毎に割合が減少した。



(6) 歯科衛生士の業務(業務量の多い順)

最も多い4点、2番目に多い3点、3番目に多い2点、4番目に多い1点として計算

- ① SC、SRP、TBI 4,535点
- ② 口腔ケア(訪問診療) 1,614点
- ③ チェアサイド業務 3,696点
- ④ その他 1,898点

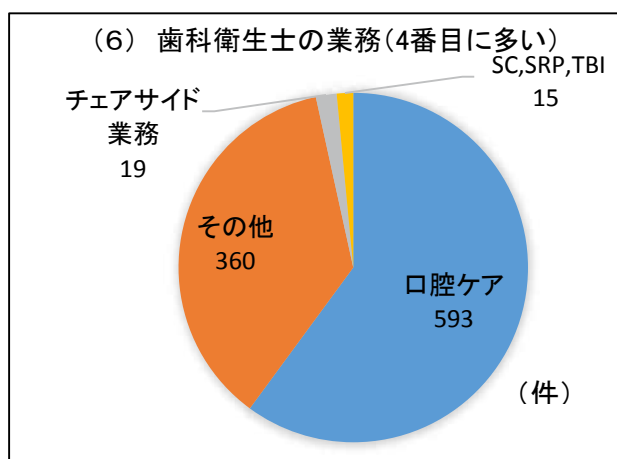
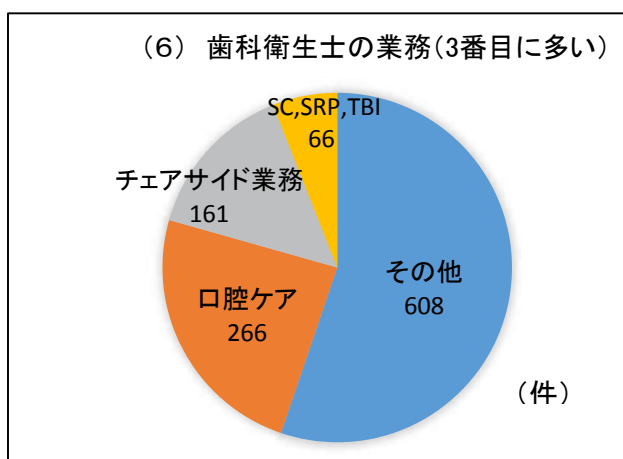
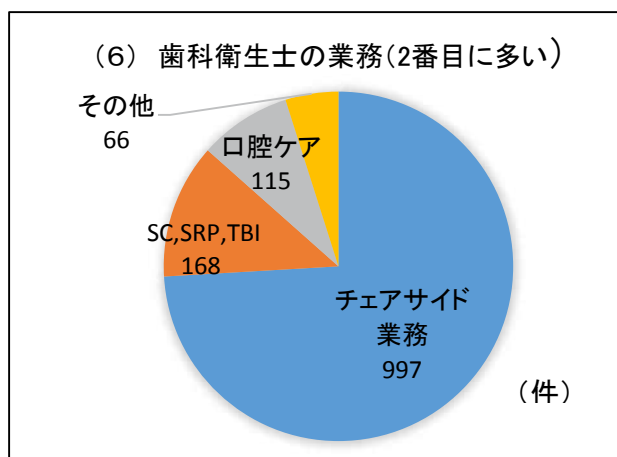
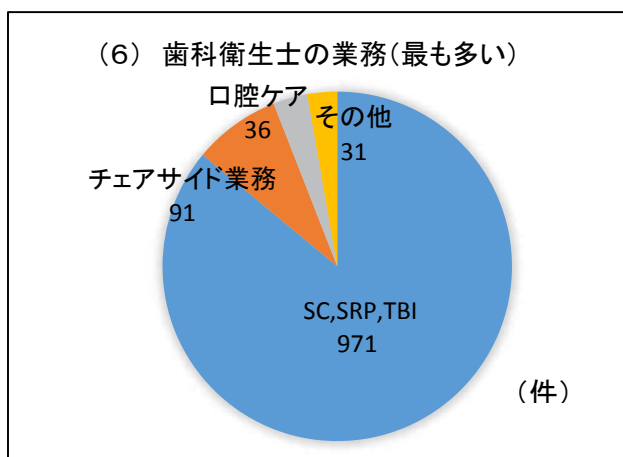
	最も多い
SC,SRP,TBI	971(86.0%)
チェアサイド業務	91(8.1%)
口腔ケア(訪問診療)	36(3.2%)
その他	31(2.7%)
合計	1129(100.0%)

	2番目に多い
チェアサイド業務	997(74.1%)
SC,SRP,TBI	168(12.5%)
口腔ケア(訪問診療)	115(8.5%)
その他	66(4.9%)
合計	1346(100.0%)

	3番目に多い
その他	608(55.2%)
口腔ケア(訪問診療)	266(24.2%)
チェアサイド業務	161(14.6%)
SC,SRP,TBI	66(6.0%)
合計	1101(100.0%)

	4番目に多い
口腔ケア(訪問診療)	593(60.1%)
その他	360(36.5%)
チェアサイド業務	19(1.9%)
SC,SRP,TBI	15(1.5%)
合計	987(100.0%)

・歯科衛生士の主な業務はSC、SRP、TBI、チェアサイド業務であった。



### (7)-1 ユニット数

#### a. ユニット数

1台	2台	3台	4台	5台	6~9台	10台以上	無回答	合計
27	233	664	371	129	60	17	20	1565
(1.7%)	(15.1%)	(43.0%)	(24.0%)	(8.3%)	(6.7%)	(1.1%)		

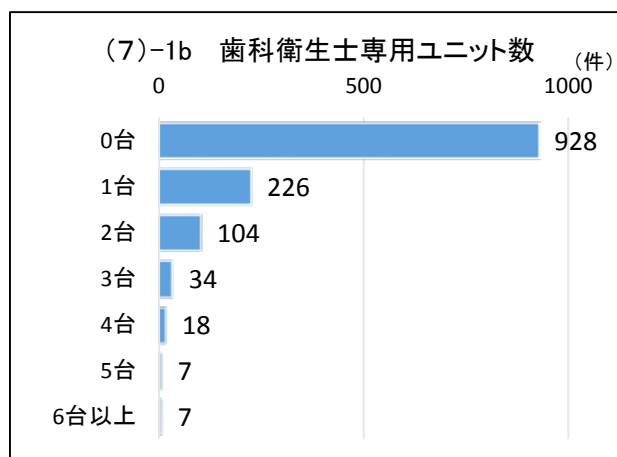
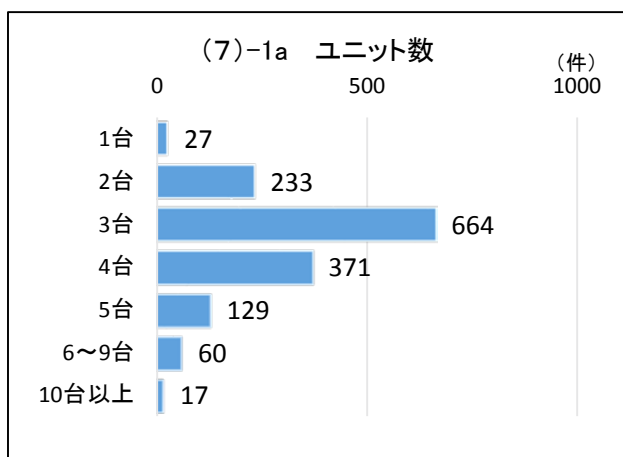
・ユニット数は3台が最も多かった。

#### b. 歯科衛生士専用ユニット数

0台	1台	2台	3台	4台	5台	6台以上	無回答	合計
928	226	104	34	18	7	7	241	1565
(70.1%)	(17.1%)	(7.9%)	(2.6%)	(1.4%)	(0.5%)	(0.5%)		

・歯科衛生士専用ユニットは約7割の診療所が持っていなかった。

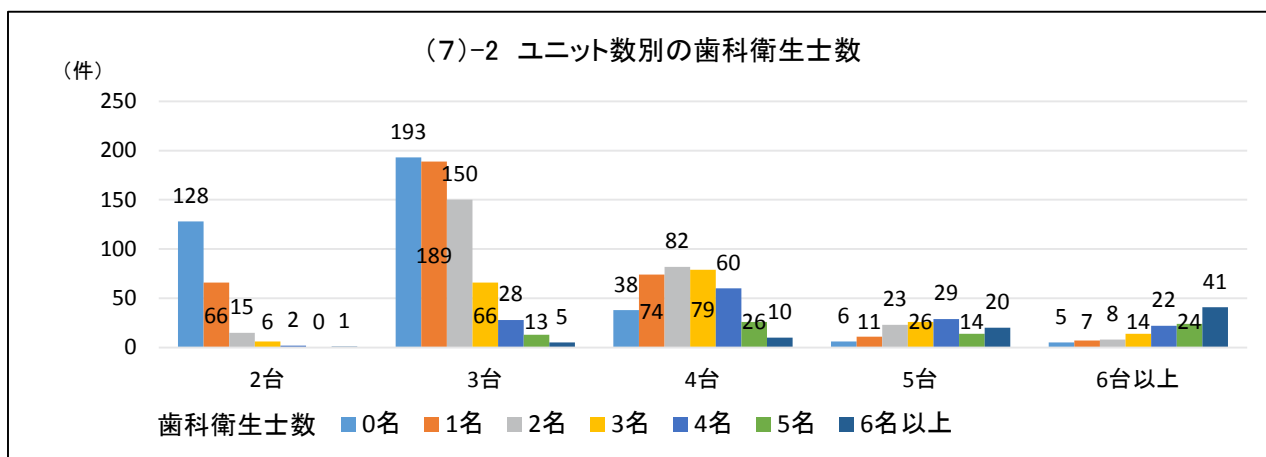
・専用ユニットは1台が最も多かった。



(7)-2 ユニット数別の歯科衛生士数

DH数 \ ユニット数	0名	1名	2名	3名	4名	5名	6名以上	無回答	合計
1台	16 (66.7%)	2 (8.3%)	1 (4.2%)	2 (8.3%)	2 (8.3%)	0	1 (4.2%)	3	27
2台	128 (58.7%)	66 (30.3%)	15 (6.9%)	6 (2.8%)	2 (0.9%)	0	1 (0.5%)	15	233
3台	193 (30.0%)	189 (29.3%)	150 (23.3%)	66 (10.2%)	28 (4.3%)	13 (2.0%)	5 (0.8%)	20	664
4台	38 (10.3%)	74 (20.1%)	82 (22.2%)	79 (21.4%)	60 (16.3%)	26 (7.0%)	10 (2.7%)	2	371
5台	6 (4.7%)	11 (8.5%)	23 (17.8%)	26 (20.2%)	29 (22.5%)	14 (10.9%)	20 (15.5%)	0	129
6台以上	5 (4.1%)	7 (5.8%)	8 (6.6%)	14 (11.6%)	22 (18.2%)	24 (19.8%)	41 (33.9%)	0	121
無回答	6	5	2	2	0	0	0	5	20
合計	392 (25.8%)	354 (23.3%)	281 (18.5%)	195 (12.8%)	143 (9.4%)	77 (5.1%)	78 (5.1%)	45	1565

- 「ユニット数3台、歯科衛生士0名」が最も多く、次いで「ユニット数3台、歯科衛生士1名」、「ユニット数3台、歯科衛生士2名」、「ユニット数2台、歯科衛生士0名」の順であった。

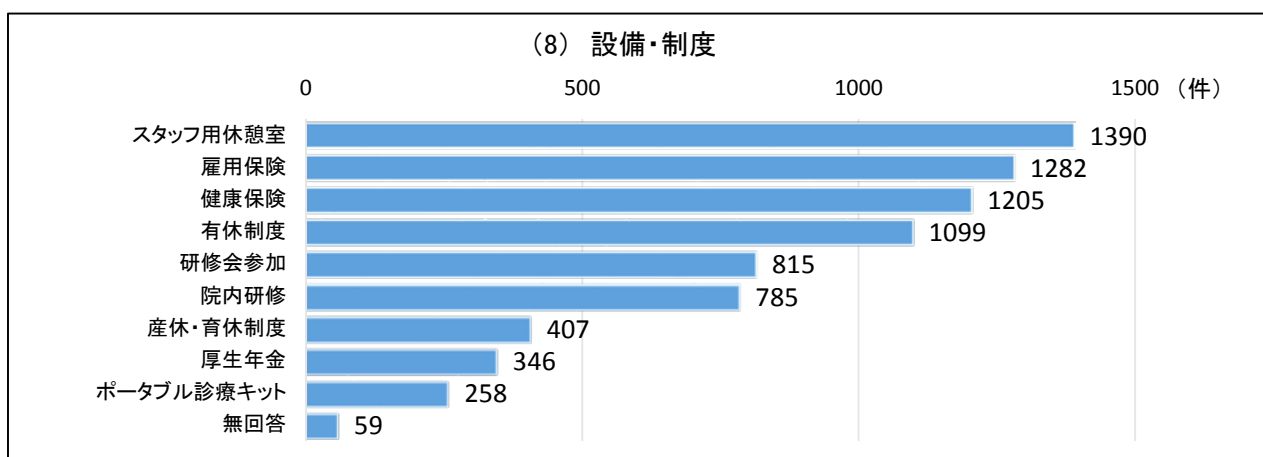


(8) 設備、制度(複数回答) 回答数1506 無回答59

- ①スタッフ用休憩室
- ②ポータブル診療キット
- ③院内研修
- ④研修会参加
- ⑤健康保険
- ⑥雇用保険
- ⑦厚生年金
- ⑧有休制度
- ⑨産休・育休制度

スタッフ用休憩室	雇用保険	健康保険	有休制度	研修会参加
1390 (92.3%)	1282 (85.1%)	1205 (80.1%)	1099 (73.0%)	815 (54.1%)
院内研修	産休・育休制度	厚生年金	ポータブル診療キット	
785 (52.1%)	407 (27.0%)	346 (23.0%)	258 (17.1%)	

- ・スタッフ用休憩室、雇用保険は8割以上であった。
- ・産休・育休制度、厚生年金、ポータブル診療キットは、3割以下であった。

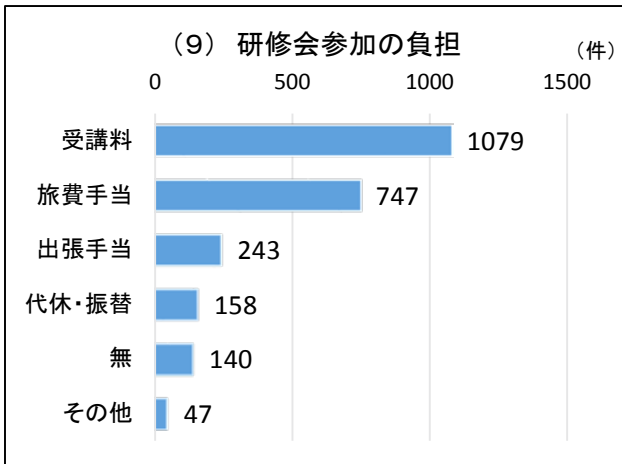


(9) 研修会参加の負担(複数回答) 回答数1269 無回答296

- ①受講料
- ②旅費手当
- ③出張手当
- ④代休・振替
- ⑤無
- ⑥その他

受講料	旅費手当	出張手当	代休・振替	無	その他
1079 (85.0%)	747 (58.9%)	243 (19.1%)	158 (12.5%)	140 (11.0%)	47 (3.7%)

- ・受講料は8割以上であった。
- ・研修会参加の出張手当、代休・振替は2割以下であった。
- ・無の診療所も1割あった。

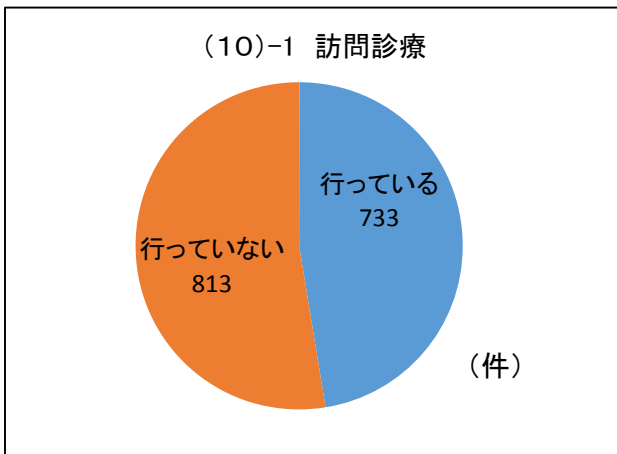


(10)-1 訪問診療 回答数1546 無回答19

- ①行っている
- ②行っていない

行っている	行っていない
733	813
(47.4%)	(52.6%)

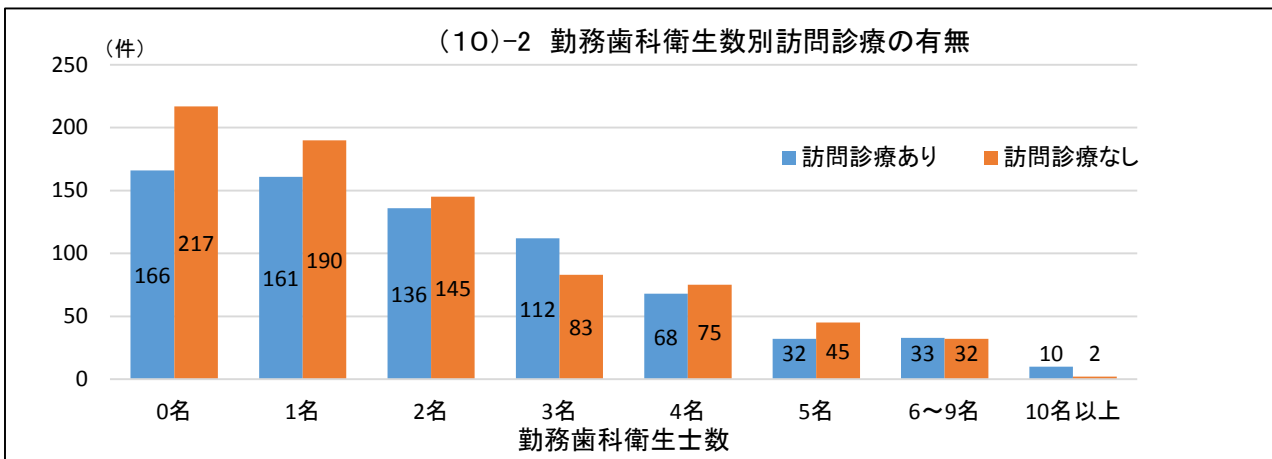
- ・訪問診療を行っている診療所は47.4%で、行っていない診療所は52.6%で行っていない診療所が約5%多かった。



10)-2 勤務歯科衛生士数別訪問診療の有無

勤務DH数	訪問診療あり	訪問診療なし	無回答	合計
0名	166(43.3%)	217(56.7%)	9	392
1名	161(45.9%)	190(54.1%)	3	354
2名	136(48.4%)	145(51.6%)	0	281
3名	112(57.4%)	83(42.6%)	0	195
4名	68(47.6%)	75(52.4%)	0	143
5名	32(41.6%)	45(58.4%)	0	77
6～9名	33(50.8%)	32(49.2%)	1	66
10名以上	10(83.3%)	2(16.7%)	0	12
無回答	15	24	6	45
合計	733(47.4%)	813(52.6%)	19	1565

- ・勤務歯科衛生士なし(0名)で、訪問診療ありが166件あった。
- ・勤務歯科衛生士数3名、6名以上の診療所は、50%以上が訪問診療を行っていた。



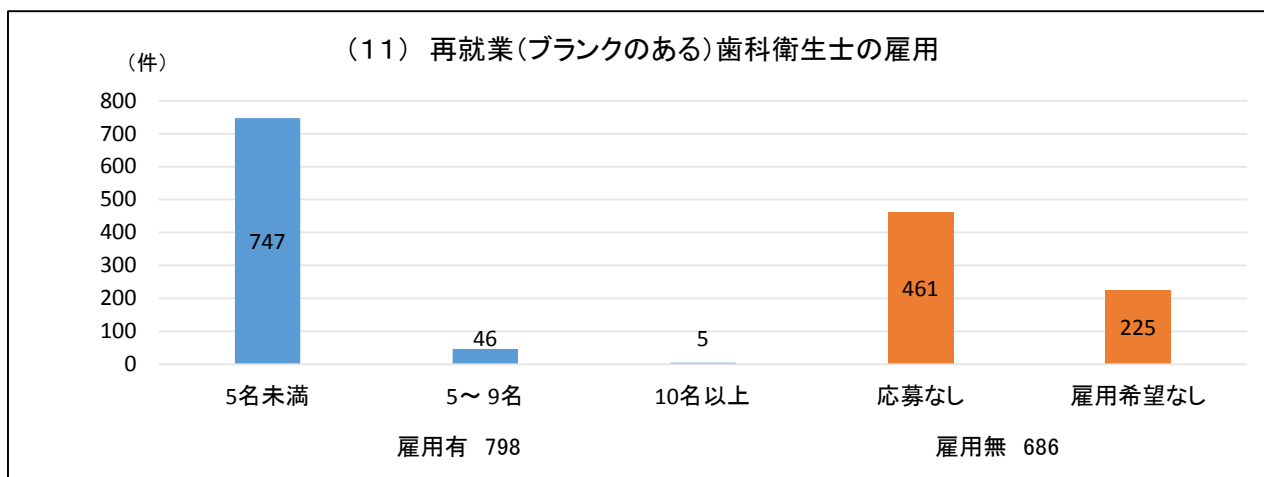
(11) 再就業(ブランクのある)歯科衛生士の雇用 回答数1484 無回答81

- 有 ①1～5名未満 ②5～10名未満 ③10名以上  
 無 ④応募がなかった ⑤雇用を希望しない

有798 (53.8%)			無686 (46.2%)	
1～5名未満	5～10名未満	10名以上	応募がなかった	雇用を希望しない
747	46	5	461	225
(50.3%)	(3.1%)	(0.3%)	(31.1%)	(15.2%)

- ・半数以上の診療所で再就業者があった。
- ・雇用を希望しない診療所が15.2%であった。



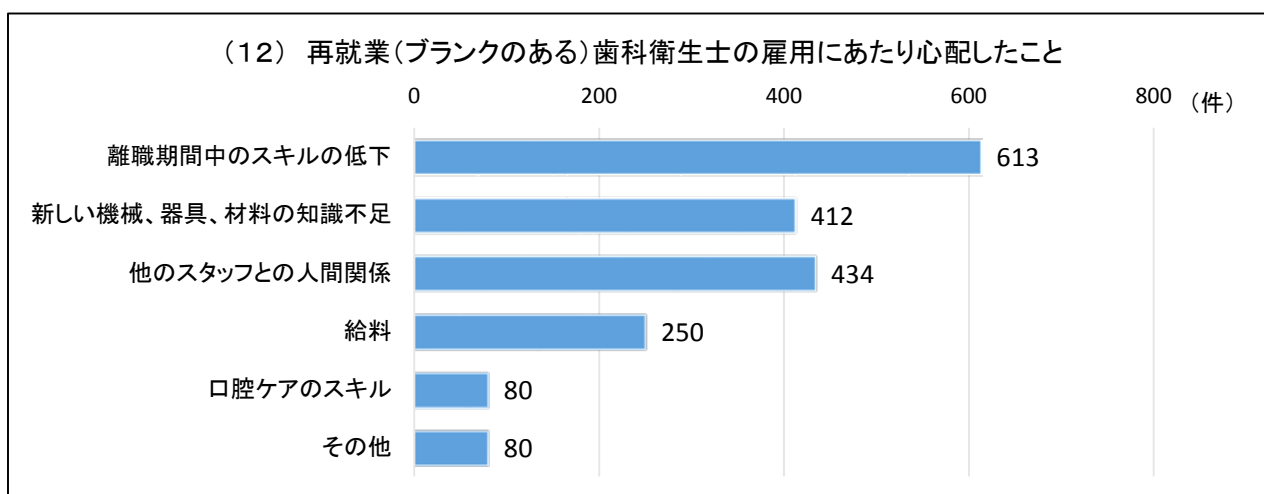


(12) 再就業(ブランクのある)歯科衛生士の雇用にあたり心配したこと(複数回答) 回答数779 無回答19

- ①離職期間中のスキルの低下
- ②新しい機械、器具、材料の知識不足
- ③口腔ケア(訪問診療)のスキル
- ④他のスタッフとの人間関係
- ⑤給料
- ⑥その他

離職期間中のスキルの低下	新しい機械、器具、材料の知識不足	他のスタッフとの人間関係
613	412	434
(78.7%)	(52.9%)	(55.7%)
給料	口腔ケア(訪問診療)のスキル	その他
250	80	80
(32.1%)	(10.3%)	(10.3%)

- ・約8割が再就業歯科衛生士のスキルの低下を心配していた。
- ・約5割が新器具、機材の知識不足、人間関係を心配していた。
- ・口腔ケアのスキルは1割が心配していた。

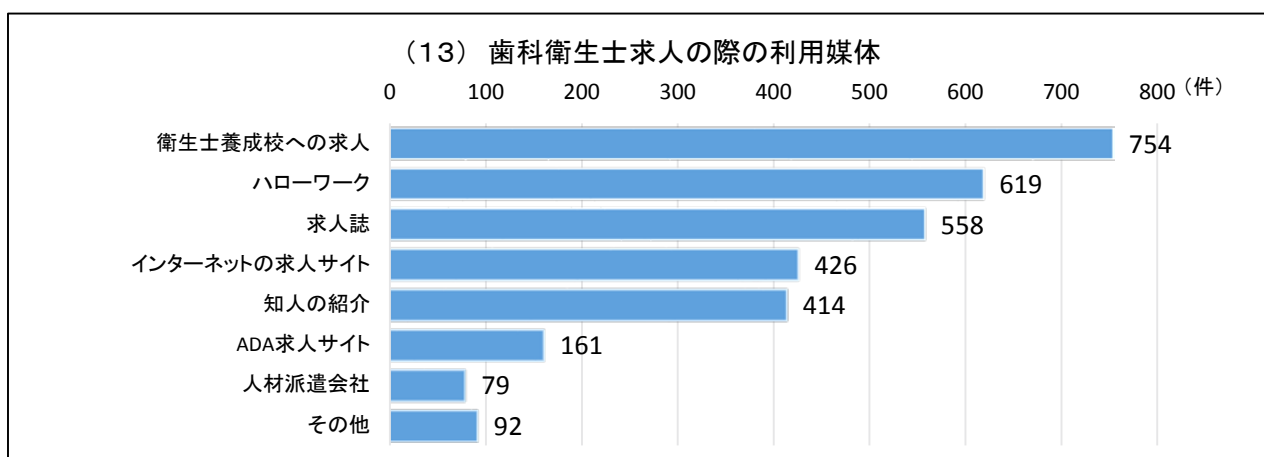


(13) 歯科衛生士求人の際の利用媒体(複数回答) 回答数1105 無回答230

- ①歯科衛生士養成校への求人
- ②インターネットの求人サイト
- ③求人誌
- ④ADA求人サイト(愛知県歯科医師会HP)
- ⑤人材派遣会社
- ⑥知人の紹介
- ⑦ハローワーク
- ⑧その他

衛生士養成校への求人	ハローワーク	求人誌
754 (68.2%)	619 (56.0%)	558 (50.5%)
インターネットの求人サイト	知人の紹介	ADA求人サイト(愛知県歯科医師会HP)
426 (38.6%)	414 (37.5%)	161 (14.6%)
人材派遣会社	その他	
79 (7.1%)	92 (8.3%)	

- ・ 求人方法は歯科衛生士養成校が最も多く、次いでハローワークが多かった。
- ・ 求人誌、インターネットの求人サイトの順で使われていた。



(14)-1 理想的な歯科衛生士数(常勤換算)

a. 理想数 回答数1483 無回答82

0名	1名	2名	3名	4名	5名	6~9名	10名以上
107	349	411	305	146	78	66	21
(7.2%)	(23.5%)	(27.7%)	(20.6%)	(9.8%)	(5.3%)	(4.5%)	(1.4%)

- ・ 2名の歯科衛生士勤務が最も多かった。
- ・ 1~3名がおよそ7割を占めた。

b. 現在の不足数 回答数1416 無回答149

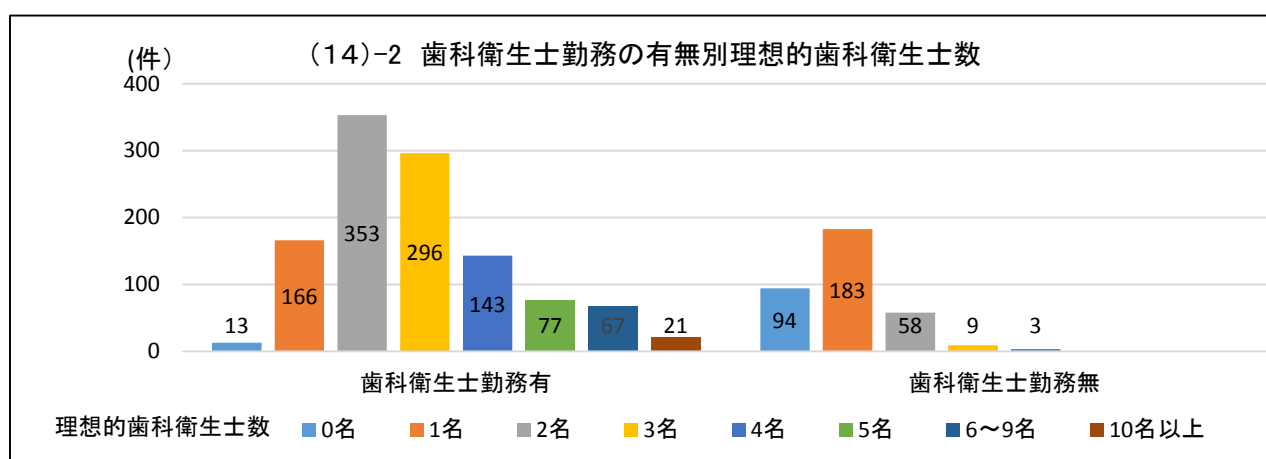
0名	1名	2名	3名	4名	5名	6～9名	10名以上
601	615	136	36	10	8	4	6
(42.4%)	(43.4%)	(9.6%)	(2.5%)	(0.7%)	(0.6%)	(0.3%)	(0.4%)

- ・1名と0名がほぼ同数で最も多かった。
- ・およそ6割が不足していた。

(14)-2 歯科衛生士勤務の有無別理想的歯科衛生士数

理想的DH数	0名	1名	2名	3名	4名	5名	6～9名	10名以上	無回答	合計
DH有	13 (1.1%)	166 (14.6%)	353 (31.1%)	296 (26.1%)	143 (12.6%)	77 (6.8%)	66 (5.9%)	21 (1.9%)	38	1173
DH無	94 (27.0%)	183 (52.6%)	58 (16.7%)	9 (2.6%)	3 (0.9%)	1 (0.3%)	0	0	44	392
合計	107 (7.2%)	349 (23.5%)	411 (27.7%)	305 (20.6%)	146 (9.8%)	78 (5.3%)	66 (4.5%)	21 (1.4%)	82	1565

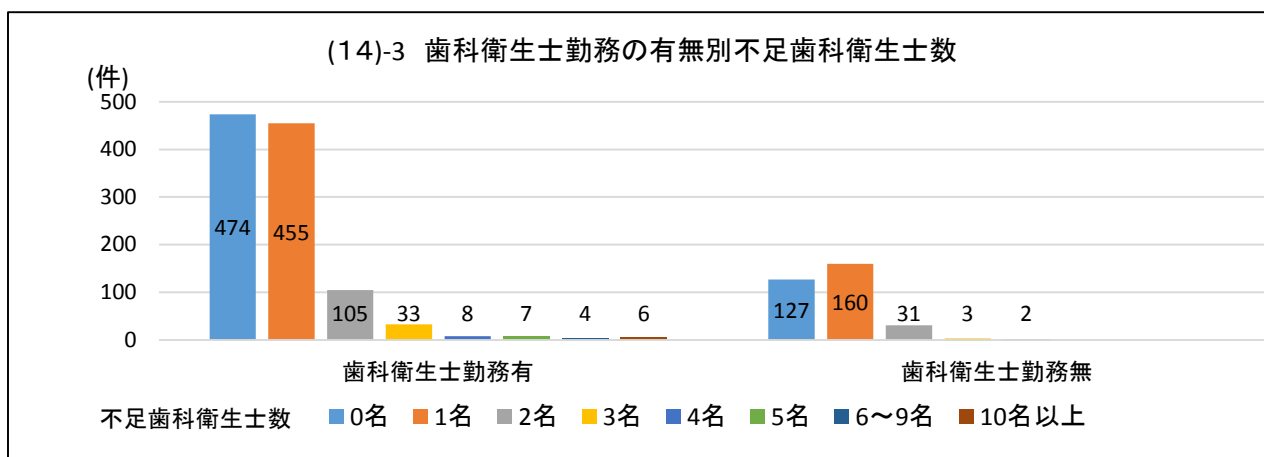
- ・歯科衛生士の勤務有では、理想的歯科衛生士数は2名が353件で一番多く、次いで3名が296件であった。
- ・歯科衛生士の勤務無では、理想的歯科衛生士数は、1名が183件で一番多かった。



(14)-3 歯科衛生士勤務の有無別不足歯科衛生士数

不足DH数	0名	1名	2名	3名	4名	5名	6～9名	10名以上	無回答	合計
DH有	474 (43.4%)	455 (41.7%)	105 (9.6%)	33 (3.0%)	8 (0.7%)	7 (0.6%)	4 (0.4%)	6 (0.5%)	81	1173
DH無	127 (39.2%)	160 (49.4%)	31 (9.6%)	3 (0.9%)	2 (0.6%)	1 (0.3%)	0	0	68	392
合計	601 (42.4%)	615 (43.4%)	136 (9.6%)	36 (2.5%)	10 (0.7%)	8 (0.6%)	4 (0.3%)	6 (0.4%)	149	1565

- ・歯科衛生士の勤務の有無に関わらず、不足なし（0名）が約4割あった。
- ・歯科衛生士勤務有では、不足なし（0名）が474件で一番多く、次いで1名が455件であった。
- ・歯科衛生士勤務無での不足数は、1名が160件で最も多かった。



## 5. 考察

### 1) 歯科衛生士調査の結果より

- ・ 今回の調査における回答者は7割が就業者で3割が非就業者からの回答であった。これは非就業者のアンケートへの意識が低いばかりでなく、連絡先が把握できず返送されてきたアンケートの多数が非就業者であることが原因と考えられる。
- ・ 非就業者の年齢は30～35歳未満が一番多く、次いで35～40歳未満の順となった。30～45歳未満で全体の約8割を占め歯科衛生士として円熟した期間に離職していることとなり、歯科医療界にとって残念な結果であった。
- ・ 歯科衛生士再就業支援事業について、就業者、非就業者共に7割認知されているという結果であったが、毎年リーフレットの郵送や、広報活動をしていることを考えるとやや少ないと思われる。今後どのように周知していくか再検討していかなければならない。
- ・ 歯科衛生士カムバック研修会の広告は、歯科衛生士養成校の協力を得てDMを郵送していることから6割近くの認知度であるが、就業者に対し非就業者の認知度が約6%低かった。DMの届かない非就業の歯科衛生士を含めるとより差があると思われることから、一般向けに広くアピールしていくと共に学生の時から周知していく必要があると思われる。
- ・ 最も多い離職の理由は、出産・育児であり、次いで結婚が多いことから、離職者の年齢が30～45歳未満で全体の約8割であることと一致している。
- ・ ADA求人サイトの認知度は3割程度で、再就職の参考求人媒体としての利用は2割以下で残念な結果であった。これは新ADA求人・求職サイトとして2014年9月にリニューアルしたため、周知不足が一因と考えられる。
- ・ 離職者の8割が再就職を希望している。特に45歳未満の回答者で顕著であることから、これらの年代をターゲットとした広報活動も有効と思われる。
- ・ 再就職の媒体としてハローワークが約6割を占め、ハローワークは歯科医院の求人媒体としても多いことからハローワーク向けのリーフレットの作成、配布が有効と思われる。
- ・ 再就職時の障害では、勤務時間(約80%)は給与・待遇面(約24%)よりも56ポイント高かった。離職原因の多くは、出産・育児、結婚であることから、再就職では勤務時間が重要なポイントになると考えられる。再就職の希望勤務形態でも常勤が約1割であるのに対してパートは

8割近かった。歯科医院側も今回の結果を踏まえ、常勤ばかりでなくパートも積極的に採用する必要がある。また、再就職希望者と歯科医院の条件をマッチングしていくような再就業支援センターなども必要と思われる。

- ・ スキルや知識等の不安や、職場環境なども再就職の障害になっていることから、現在の歯科衛生士カムバック研修会のみでなく、歯科医院に向けた良好な職場環境作りの講習会も必要だと考える。
- ・ 現在就業中の歯科衛生士のアンケートでは、勤務形態はややパートが多いが、ほぼ半々の割合であり、常勤は8時間、パートは4時間が最も多かった。また常勤は週5日間勤務、パートは週4日間勤務が最も多かった。これらは、今後歯科医院が歯科衛生士を求人する際の参考になると思われる。
- ・ 仕事内容に満足していないという回答は16.2%であり、特にチェアサイド業務に満足していない傾向がうかがえ、SC、SRP、TBIや口腔ケア（訪問診療）業務は満足度が高く、積極的に患者と係わっていききたいという傾向が見られた。
- ・ 就業中の歯科衛生士は満足している事柄として、半数以上の方が仕事内容、所在地・通勤時間、勤務時間、職場の人間関係としたが、有休制度、厚生年金、雇用保険などの労働条件とした方は少なかった。満足されない事柄では、給与が半数以上で、仕事内容、勤務時間、有休制度が3割以上であった。つまり、歯科衛生士が継続して勤務していく上での重要となる事柄は、仕事内容と勤務時間であることが分かった。
- ・ 歯科医師会のレベルアップセミナーの認知度は約4割であり、就業中の歯科衛生士に対するフォローも今後の課題と思われる。

## 2) 歯科医師調査の結果より

- ・ 県下3,723歯科医療機関の内1,565件（42.0%）の回収率であった。30歳未満の3件（0.2%）は30歳未満の開業歯科医が少ないためと思われる。
- ・ 歯科衛生士有の診療所の割合が、他地区に比べ名古屋地区が10%程高かった。歯科衛生士のアンケートの就業地区では西三河地区が少なかったが、他はほとんど差が見られなかった。
- ・ 歯科衛生士のいる診療所は、50歳を境に若い年代ほど多く50歳未満では80%を超えていた。70歳以上では歯科衛生士有と無が同数であった。これは「求人状況からみた診療所における歯科衛生士不足に関する研究」（口腔衛生会誌、J Dent Hlth 62 2012）による歯科衛生士を募集している歯科診療所は、歯科衛生士専用ユニットを所有し、院長の年齢が若いなどの特徴が見られるという結果と一致していた。
- ・ ユニットは3台が43.0%と最も多く、次いで4台の24.0%であった。歯科衛生士専用ユニットを持っていない診療所が70.1%であった。ユニット数と歯科衛生士の関連はあまり見られなかった。
- ・ 訪問診療を行っている診療所は47.4%で、行っていない診療所は52.6%と行っていない診療所が多かった。また、訪問診療を行っている診療所の中で歯科衛生士のいない診療所は166件（23.1%）、1人以上いる診療所は552件（76.9%）であり、訪問診療における歯科衛生士の重要性がうかがえた。
- ・ 半数以上の診療所で再就業歯科衛生士の雇用があった。その反面15.2%の診療所が雇用を希望

しないとの意見がみられた。再就業歯科衛生士の雇用に当たり心配したことは、離職期間中のスキルの低下が約8割、新しい機械、器具、材料の知識不足が約5割と多く、歯科衛生士の再就業の障害と一致しており、カムバック研修会をより充実させ両者の心配を払拭することが再就業の大きな課題と考えられる。

- ・ 求人方法は歯科衛生士養成校、ハローワーク、求人誌、インターネットの求人サイトの順で使われていた。歯科衛生士のアンケートでもハローワーク、インターネットが多く両者の共通のツールとなっている。歯科衛生士が養成校への求人票を参考にするのは1割程度であり、今後養成校にも再就職の窓口を作るよう働きかけていく必要があると思われる。
- ・ 歯科衛生士が勤務している診療所では理想的な歯科衛生士数は2、3名で、歯科衛生士無の診療所は歯科衛生士1名を理想としており、歯科衛生士が1名足りないとの回答が最も多かった。歯科衛生士が不足していないと回答した診療所は1,416件中42.4%の601件であるが、不足している診療所は57.6%の815件で不足している診療所の方が多かった。また、応募無の診療所が461件あり、半数以上が歯科衛生士を雇用したくても雇用できていない現状も明らかになった。

### 3) 総括

- ・ 歯科衛生士就業実態調査（歯科医師用、歯科衛生士用）によると、歯科衛生士が不足していないと回答した診療所は約4割（1416件中601件）、不足していると回答した診療所は約6割（同815件）で、不足している診療所の方が多かった。詳細をみると歯科衛生士が一人もいない診療所が1520件中392件あり、そのうち回答無の68件を除いた約4割（127件）の診療所は、歯科衛生士が不足していないと回答した。しかし約6割（197件）の診療所は、不足していると回答していることから、歯科衛生士を雇用したくても出来ていない診療所が相当数存在するという状況が明らかになった。
- ・ 歯科診療所の規模を示すユニット数で検証した場合、ユニットが2台の233件中128件、1台の27件中16件と、歯科衛生士0名が過半数を占めており、規模、診療形態等によっては歯科衛生士が不要である診療所も存在することが見て取れる。また、現在歯科衛生士がいる1,173件の診療所を調査したところ、約5割（618件）の診療所はまだ歯科衛生士が不足していると回答し、約4割（474件）の診療所は不足していないと回答した。ここから既に歯科衛生士を雇用している診療所の過半数も、歯科衛生士の不足を実感しているという現状が浮き彫りとなった。
- ・ 歯科衛生士が不足していると回答された診療所について、その不足数を調査すると1名不足が615件、2名不足が136件、3名以上不足が64件であり、不足している延べ人数は1,163人に達する。回答率（42.0%）を踏まえて単純計算すると2,769人の歯科衛生士が不足していることになる。また、人口10万人当たり歯科衛生士数が全国平均より25人少ない愛知県の場合、愛知県の人口741万人で計算すると、全国平均に到達するには就業歯科衛生士数が約1,850人不足していることになる。
- ・ 離職した歯科衛生士の8割が再就職を希望していることから、再就職に対する関心は非常に高いことが分かった。平成26年度衛生行政報告例（就業医療関係者）では2年前の前回調査と比較すると愛知県では人口10万人当たり10.8人増加しており、2年前と比較して約800人、1年で400人の増加である。現状のままでは全国平均に達するまでに4～5年かかり、不足数を満たすには7

年以上かかる計算になる。しかし、毎年 400～450 名の新卒歯科衛生士が輩出されることから、職場環境を整え離職者の減少に努め、再就業支援事業を今まで以上に機能させることによって 8 割いる再就業希望者を掘り起こしていけば、早期達成も不可能ではないと考える。

- ・ 再就業希望者のアンケートを分析してみると、約 8 割が勤務時間に対して不安を抱いていた。次いでスキルや知識の不安が約 6 割で、給与・待遇は約 2 割であり、勤務時間を含む労働条件に対する不安が最も多かった。就業希望者が再就職する際に考慮する内容のアンケートにおいても、勤務時間や通勤時間を挙げる人が多いため、受け入れる歯科医院側も今回の調査結果を踏まえて、常勤のみでなくパートを含めた勤務時間を含む労働条件に関する環境を整備する必要があることがわかる。
- ・ 口腔ケア（訪問診療）業務の満足度が高いことや再就業希望者のパート希望が 75.8%と多いことから訪問診療や介護現場での口腔ケアに特化したパート採用という点でカムバック研修会を考え、訪問診療を行っている診療所やこれから計画している診療所とマッチングできれば再就業増加に繋がると思われる。愛知県歯科医師会では、2012 年より在宅歯科医療連携室を開設して、通院して治療することが難しい人に訪問診療を行っている診療所を紹介したり、施設に歯科衛生士を派遣して口腔機能訓練や口腔ケアの方法を教えている。この連携室を活用して、再就業した歯科衛生士に対しても口腔機能訓練や口腔ケアのスキルを教える研修会を診療所で行える事をマッチングの際に PR していけば、再就業につながると思われる。
- ・ スキル不足に対する心配や、給与・待遇・有休制度・雇用保険・厚生年金などの問題に関しては、今までの再就業支援事業や労務関連講習会をより充実させ、再就業希望者にとって使い勝手の良い講習を目指すと共に、それらに関する歯科医院側の意識改革も必要と思われる。
- ・ 求人・求職に関しては、歯科医院が歯科衛生士を求人する場合、歯科衛生士養成校、ハローワークの順で活用しており、歯科衛生士が再就職時に参考にする媒体はハローワーク、インターネットの順である。どちらもハローワークを多く活用している事が分かったが、歯科医院側が最も求人の際に利用する歯科衛生士養成校への求人は、再就職を希望する歯科衛生士の 1 割程しか活用していないことが分かった。歯科衛生士養成校に再就職の相談窓口を置くなどの協力を依頼し、再就職の際、利用しやすい環境を整備していく必要がある。
- ・ ADA 求人サイトの利用率が、歯科医師 14.6%、歯科衛生士 17.6%と利用がまだ少なく、もっと活用していただけるよう広報していく必要がある。昨年度より ADA 求人サイトでのマッチング状況を把握できる様に改良したが、まだまだ運用が難しく、マッチング件数を含め、今後の課題である。マッチング件数が上がれば歯科医師の利用率も上がっていくと思われる。ハローワークは求人側、求職側ともに多くが利用しているので、ADA 求人サイトのパンフレットや、歯科衛生士の再就業を促すようなパンフレット、リーフレットを置かせてもらい、他職種に就業しようとしている方にもアピールできるような広報は、費用対効果の面からも有効と考える。歯科衛生士養成校の同窓会会報等の配布物に掲載することも効果的ではないかと思われる。
- ・ 各養成校の同窓会組織の名簿の管理が難しくなっているため、卒業後に連絡が取れなくなってしまうことから、情報が周知できないという問題に関しては、結婚を理由に卒業後の早い段階で所在が不明になる事が主な原因として挙げられる。そのため歯科衛生士養成校の協力を得て組織作りを強化し、対策をしていくと共に、現在就業中の歯科衛生士にもパンフレットを配布するな

ど離職前から再就業支援事業を周知することも必要と考える。また、昨年度行った学生の就職に関するアンケートから再就業支援事業の認知度が 28%しかなかったことを踏まえて、学生に対して再就業支援事業や ADA 求人サイトなどを周知していくことも将来を考えると有効と思われる。

- ・ 歯科衛生士の仕事内容の満足度調査で口腔ケア（訪問診療）業務の満足度が高いことから歯科診療所が、このような人材を活用できる環境を作っていくことが、口腔ケア（訪問診療）に興味を持っている歯科衛生士の掘り起しに繋がっていくと思われる。
- ・ 今回の調査結果を、離職している歯科衛生士に上手く広報できれば、歯科衛生士の人材不足解消に多少なりとも寄与できるのではないかと考えられる。

## 6. まとめ 今後の歯科衛生士再就業支援事業に関する提案

今回の調査から、今後の歯科衛生士再就業事業に必要な新たな展開、体制を整備していかなければならない。以下の項目を事業の成功を納めるための課題として掲げて、愛知県内の歯科衛生士不足を解消し、県民が良好な歯科医療を享受できる環境を整え、健康寿命の向上に貢献できるよう邁進したい。

- ・ 未就業歯科衛生士とのネットワークづくり。

現在行っている歯科衛生士再就業支援事業について、マスメディアを利用した PR を定期的に行いカムバック研修会参加者、バンク登録者を増やす。

歯科衛生士養成校に再就業の相談窓口をつくり、バンク登録してもらう。

- ・ カムバック研修会を名古屋市以外でも開催していく。
- ・ 歯科衛生士を目指す人材の開拓、確保。郡市区歯科医師会に働きかけ 1 部の歯科医師会で行っているインターンシップ（職業体験制度）事業を高校生対象に行い、若い世代に歯科衛生士の重要性をアピールしていくと共に奨学金制度を検討していく。
- ・ 歯科衛生士養成校の協力を得て学生に対して就職、再就業支援事業に関する情報を提供していく。
- ・ ADA 求人サイトの利用率が、歯科医師 10.3%、歯科衛生士 17.6%と共に利用がまだ少なく求人サイトの周知を行う。  
求職希望のバンク登録者と求人歯科診療所を ADA 求人サイトを活用して、マッチングする。
- ・ 再就業希望者の 8 割が勤務時間を含む労働条件に不安を感じていることから、歯科医師に対する労務関連の講習会等を行い、良好な就業環境の整備に努める。



愛知県歯科医師会	会 長	渡 邊 正 臣
	副 会 長	内 堀 典 保
	常務理事	相 村 豊 彦
医療管理部	部 長	辻 岡 義 人
	同	河 合 一 正
	次 長	浅 田 史 忠
	同	横 山 康 之
	同	後 藤 琢 也
	部 員	片 田 澤 毅
	同	金 山 口 由記朗
	同	風 岡 盛 夫
	同	大 島 陽 太
	同	末 永 祐 敬
	同	杉 浦 賢 哉
	同	野 田 義 直
	同	横 井 隆 政
	同	伊 藤 利 樹